

SMBCグループ リテール事業部門

お客さま本位の業務運営に関する取組方針

SMBCグループ リテール事業部門(※1)は、個人のお客さま向けの資産運用、資産形成コンサルティング業務に販売会社として取り組むに当たり、SMBCグループの「お客さま本位の業務運営に関する基本方針」に基づき、お客さま本位の業務運営に取り組んでおります。

具体的な取組方針(以下、「取組方針」)は下表の通りで、その詳細と具体的な取組状況は後述の通りです。Integrity(※2)を大前提にコンプライアンス・お客さま本位を徹底するために、リテール事業部門では、「Integrity for Customer」を掲げております。

そのため、計数指標を「Integrity Indicator」という名称とし、お客さま本位の活動に資する指標として、PDCAサイクルの中で、状況を確認、分析、お客さまへの対応や業務運営の高度化を図っております。

以上の取組みを通じ、「お客さまにとっての最善の利益」を実現するために、真のニーズに合致している商品・サービスを提供することを目指し、お客さまをよく知り、お客さまがご納得された上で商品・サービスを選択できるように、一人ひとりに合ったソリューションを提供します。

お客さまの豊かな生活や安心感の実現に向けて、お客さまの目指す利益のために、お客さま本位の業績評価体系や適切な商品の導入・選定に注力してまいります。

また、引き続き、具体的な取組状況を定期的に公表し、状況に応じ、取組方針の見直しを行ってまいります。

取組方針

- 1 中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案
- 2 お客さま本位の商品ラインアップの整備
- 3 お客さま本位のアフターサービスの充実
- 4 お客さま本位の業績評価体系の整備
- 5 コンサルティング力向上に向けた取組み

SMBCグループで連携し、各社の特長を活かし、お客さまの幅広いニーズに対応してまいります。

SMBC 三井住友銀行

中長期分散投資を軸とした
コンサルティング

「資産を守りたい」「これから資産
を形成していきたい」というニーズ
への提案力に強み

SMBC日興証券

高度・多様な運用ニーズを
お持ちのお客さまへの
きめ細かいサービスの提供
幅広い商品のラインアップへの
ご希望を含め、より高度・多様な
運用ニーズへの提案力に強み

PRESTIA
 SMBC信託銀行

「外貨」の強みを活かしたサービスの提供
外貨運用や外貨決済をはじめとした
外貨に関する高度なニーズへの提案力に強み

(※1) SMBCグループ：株式会社三井住友フィナンシャルグループのグループ会社の総称
SMBCグループ リテール事業部門：三井住友銀行、SMBC日興証券、SMBC信託銀行、三井住友カード、SMBCコンシューマーファイナンス等で構成し、資産運用業務・資産形成業務等のリテールビジネス業務を所管

(※2) SMBCグループでは、役職員が共有すべき価値観(Five Values)の一つとして、『Integrity: プロフェッショナルとして高い倫理観を持ち誠実に行動する』を掲げています。

取組方針とIntegrity Indicator

取組方針 1 中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案

P3-9

多くのお客さまがお持ちの「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確に対応することを主眼に置き、中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案を行います。また、それを通じて、お客さま本位の金融商品の提供に注力してまいります。

Integrity Indicator ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

取組方針 2 お客さま本位の商品ラインアップの整備

P10-30

お客さまの「資産を守りたい」というニーズや「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確にお応えできるよう、グループ会社の商品に関わらず、必要に応じ第三者評価も取り入れ、商品ラインアップを随時見直し、充実させてまいります。また、お客さまへの情報提供の充実、分かりやすさの向上に努めてまいります。

Integrity Indicator ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱

取組方針 3 お客さま本位のアフターサービスの充実

P31-32

お客さまに長期的に安心して運用商品をお持ちいただけるよう、きめ細かいアフターサービスに努めてまいります。

取組方針 4 お客さま本位の業績評価体系の整備

P33

お客さま本位の営業活動を的確に行うことを促すため、業績評価体系を整備してまいります。

取組方針 5 コンサルティング力向上に向けた取組み

P34-35

お客さまの幅広いニーズに最適なお提案ができるよう、コンサルティング力の継続的な向上を図ってまいります。

Integrity Indicator ⑲

Integrity Indicator

⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ : 共通KPI※

- | | |
|--------------------|--|
| ① 運用資産残高増加額 | ⑪ 一時払保険の商品別販売額 |
| ② 投資信託・ファンドラップの残高 | ⑫ 投資信託のグループ会社商品比率 |
| ③ 運用商品をお持ちのお客さま数 | ⑬ 投資信託(含むファンドラップ)販売(契約)額(毎月決算型とそれ以外の別) |
| ④ 運用商品の商品別販売比率 | ⑭ 投資信託・ファンドラップの運用損益別顧客比率 |
| ⑤ 投資信託の解約率 | ⑮ 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン |
| ⑥ ファンドラップの契約・解約額 | ⑯ 投資信託の預り残高上位銘柄のリスク・リターン |
| ⑦ 外貨定期預金預入額・外貨預金残高 | ⑰ 外貨建保険の運用評価別顧客比率 |
| ⑧ 投資信託・外貨自動積立件数 | ⑱ 外貨建保険の銘柄別コスト・リターン |
| ⑨ 投資信託・外貨自動積立金額 | ⑲ FP資格保有比率 |
| ⑩ NISA口座数 | |

※ 共通KPI : 「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」(2018/6金融庁公表)の定義に沿い算出
「外貨建保険の販売会社における比較可能な共通KPIの定義について」(2022/1金融庁公表)の定義に沿い算出

取組方針

1

中長期分散投資を軸とした お客さま本位の運用提案

お客さまのライフプランや資産運用に関するお考え、知識・経験、資産の状況等を十分に把握し、モデルポートフォリオ(※)の考え方を織り込んだ「お客さま本位の提案プロセス」に基づき、お客さまに適した金融資産の運用方法や商品をご提案しております。お客さまや商品の特性・リスクを踏まえながら、特に、以下のような中長期分散投資に資するご提案に注力してまいります。(※)資産運用のための分散投資においてモデルとなる資産の組合せ

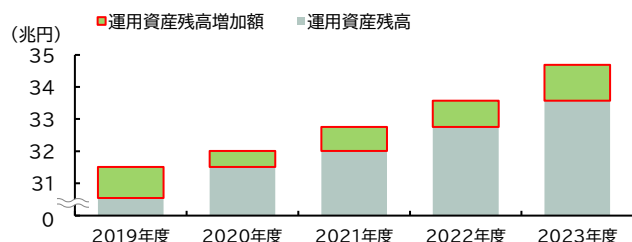
- 資産分散のため、コアとなる商品・サービスとして、ファンドラップ(※)やバランスファンドをご提案しております。(※)SMBC日興証券が提供する投資一任運用サービス。運用方針・ファンドの選択・ポートフォリオの管理等を運用会社に一任いただくもの。
- 通貨分散のため、外貨預金等の外貨建資産のご提案しております。
- 「これから資産を形成していきたい」というニーズをお持ちのお客さまに的確に対応するため、時間分散の観点から、投資信託や外貨の自動積立をご提案しております。
- 保険商品については、保険商品の元来有する特長を活用することによって、「年金」「遺す」「贈る」といったお客さまのニーズに適切に応えられるようご提案しております。
- リスク性金融商品のご提案にあたっては、比較可能な複数の商品を提示・説明し、お客さまのニーズに適合していることやリスク・手数料等の商品内容をご理解されていることを確認しながら、ご提案しております。
- お客さまが運用初心者や高齢の方の場合や、複雑またはリスクの高い金融商品を扱う場合は、より一層丁寧にご説明をしております。

1 運用商品のお取引状況

- 中長期分散投資を軸としたお客さま本位の取組みの継続等により、運用資産残高は、2023年度も、銀行・日興・信託合算ベースで、ファンドラップを中心に増加基調。
- 「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確にお応えできるよう努めており、運用商品をお持ちのお客さま数は、引き続き増加。

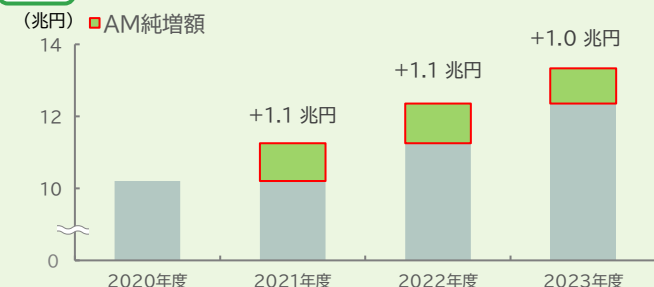
1 運用資産残高増加額

銀行 日興 信託



※ 銀行:リテール部門(個人)、日興:営業部門(個人)、信託:PRESTIA
※ 運用資産残高(左軸)の2021年度以前は、2022年度の残高から増加額を除外して算出

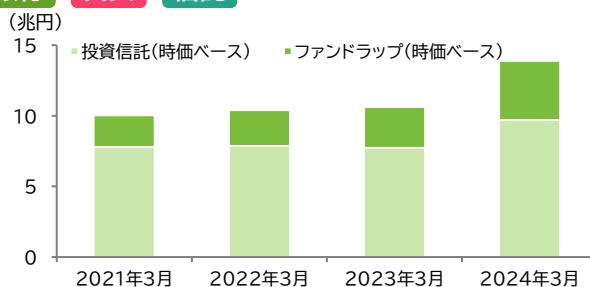
参考 AM純増額



※ AM純増額 = 投資信託・ファンドラップ等における増加額(除く時価影響)

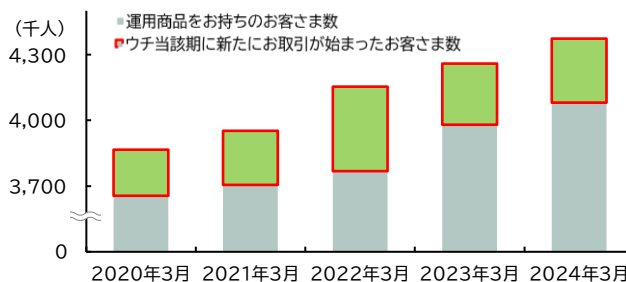
2 投資信託・ファンドラップの残高

銀行 日興 信託



3 運用商品をお持ちのお客さま数

銀行 日興 信託

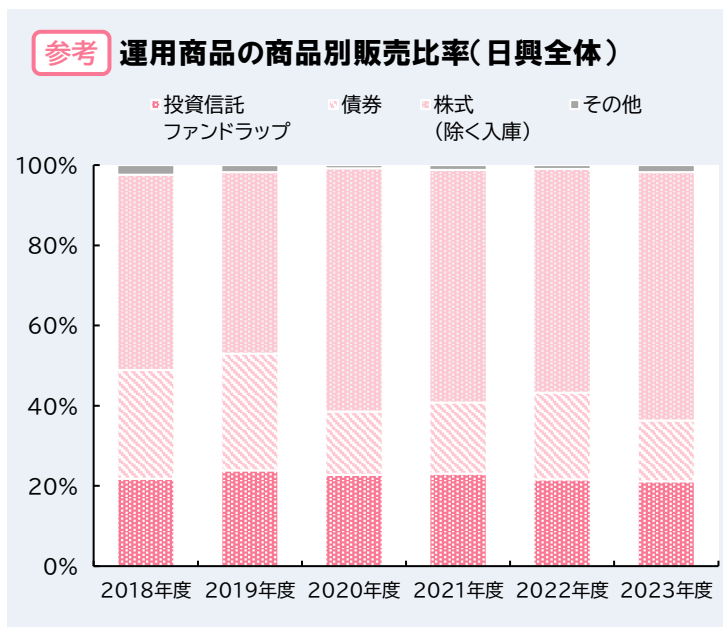
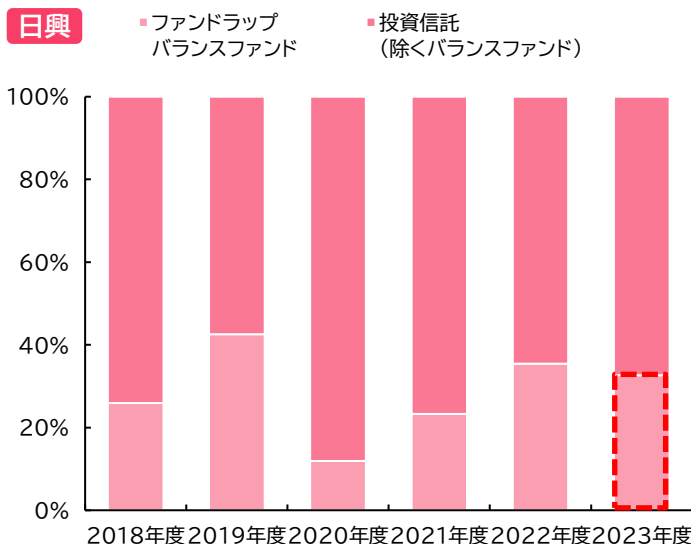
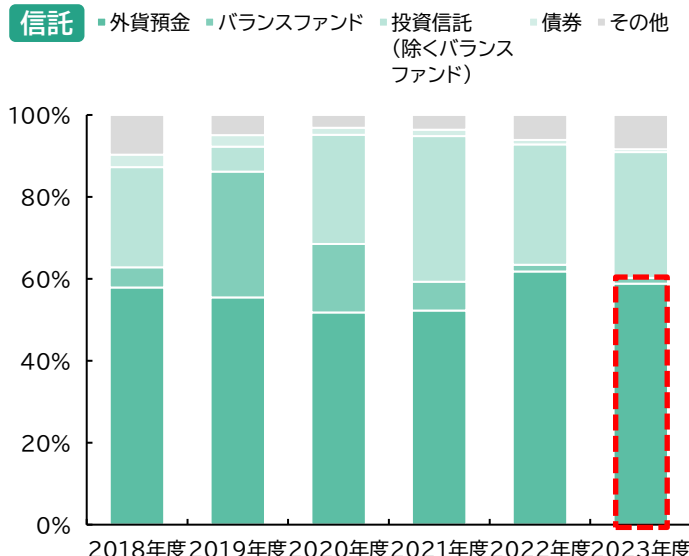
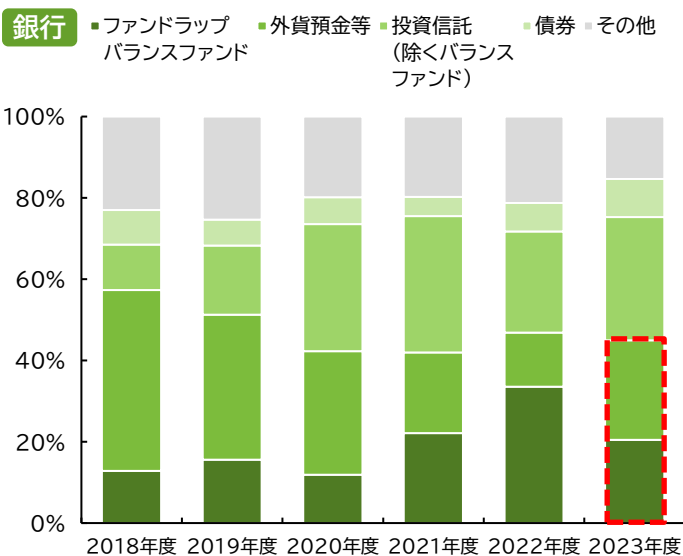


※ 2017年度にSMBCフレンド証券をSMBC日興証券に統合したことによる増加分(約320千人)を含みます

2 お客さまにとって最適な運用方法のご提案

- 銀行** 「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズをお持ちのお客さまに、ファンドラップやバランスファンドを中心とした継続的な運用提案に取り組み。また、運用初心者の方や主に為替リスクに限定した商品をご希望される方には、通貨分散の観点から外貨預金等をご提案。2023年度においては、インフレや為替変動などの外的要因から資産守るために、外貨預金等への関心が高まり、販売額・比率が増加。
- 日興** 多様な運用ニーズをお持ちのお客さまに、ファンドラップ・バランスファンドを中心とした継続的な運用提案に取り組み、2023年度は、ファンドラップ・バランスファンドの契約・販売額が増加。
- 信託** 外貨に関して多様なニーズをお持ちのお客さまに対し、提案力の強みを活かし、中長期分散投資を前提として、外貨建運用商品のご提案に積極的に取り組み、2023年度も外貨預金の販売比率が半数以上を占める。

4 運用商品の商品別販売比率

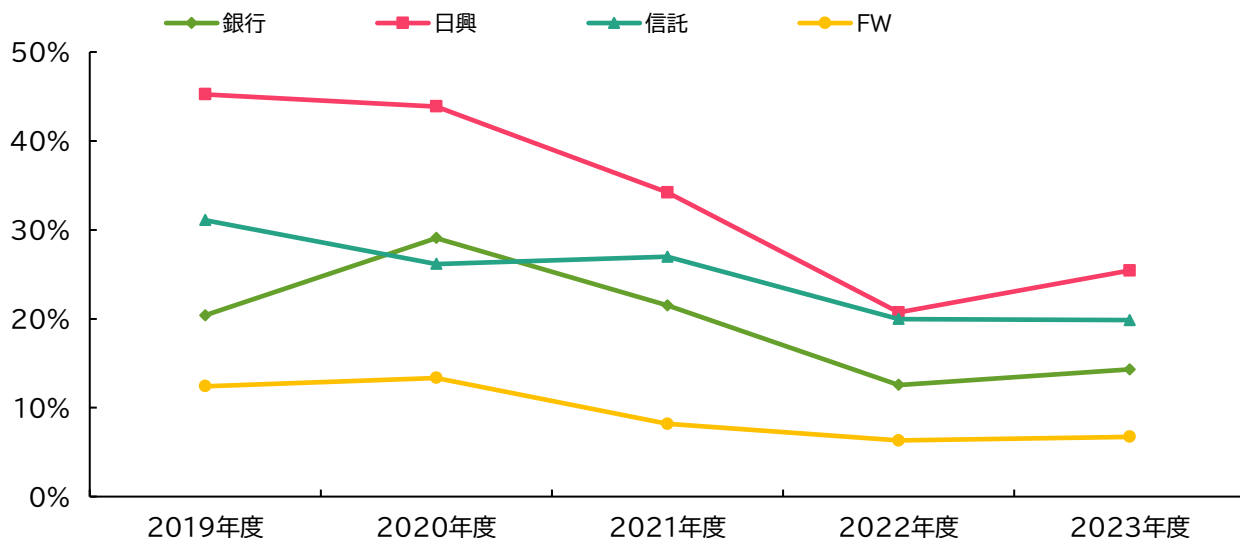


5 投資信託の解約率

銀行 日興 信託

- 「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズにお応えするために、中長期分散投資を前提とした提案を行っております。
- 投資信託の解約率(※)はマーケット環境もあり、利益確定等の解約が発生し、やや上昇するも、低下傾向となる。
- 資産分散のコアとなるサービスであるファンドラップの解約率については、低位のまま推移。

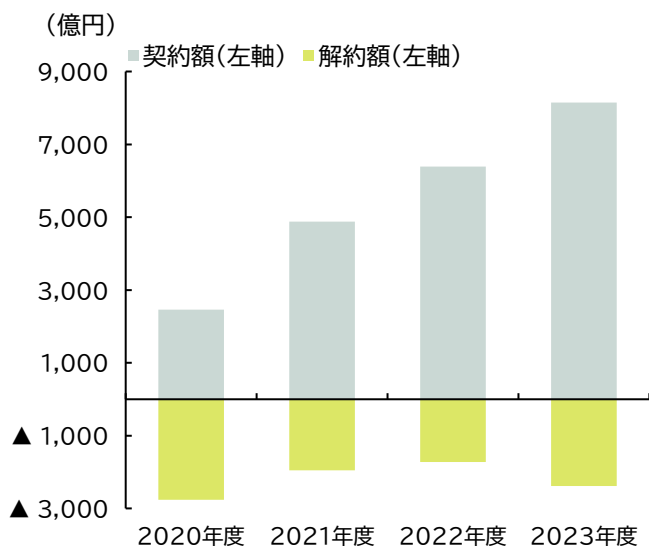
(※)「解約率」は「解約・償還額÷前期末及び今期末の残高平均」で算出



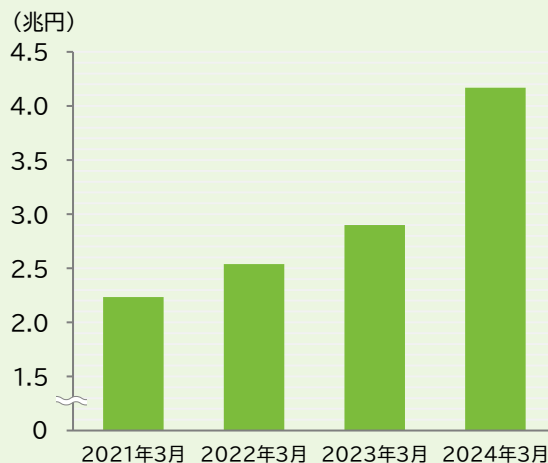
6 ファンドラップの契約・解約額

銀行 日興

- ファンドラップは、中長期分散投資に資するサービスのひとつとして、グループベースでの積極的な提案に努めております。



参考 ファンドラップの残高(時価ベース)

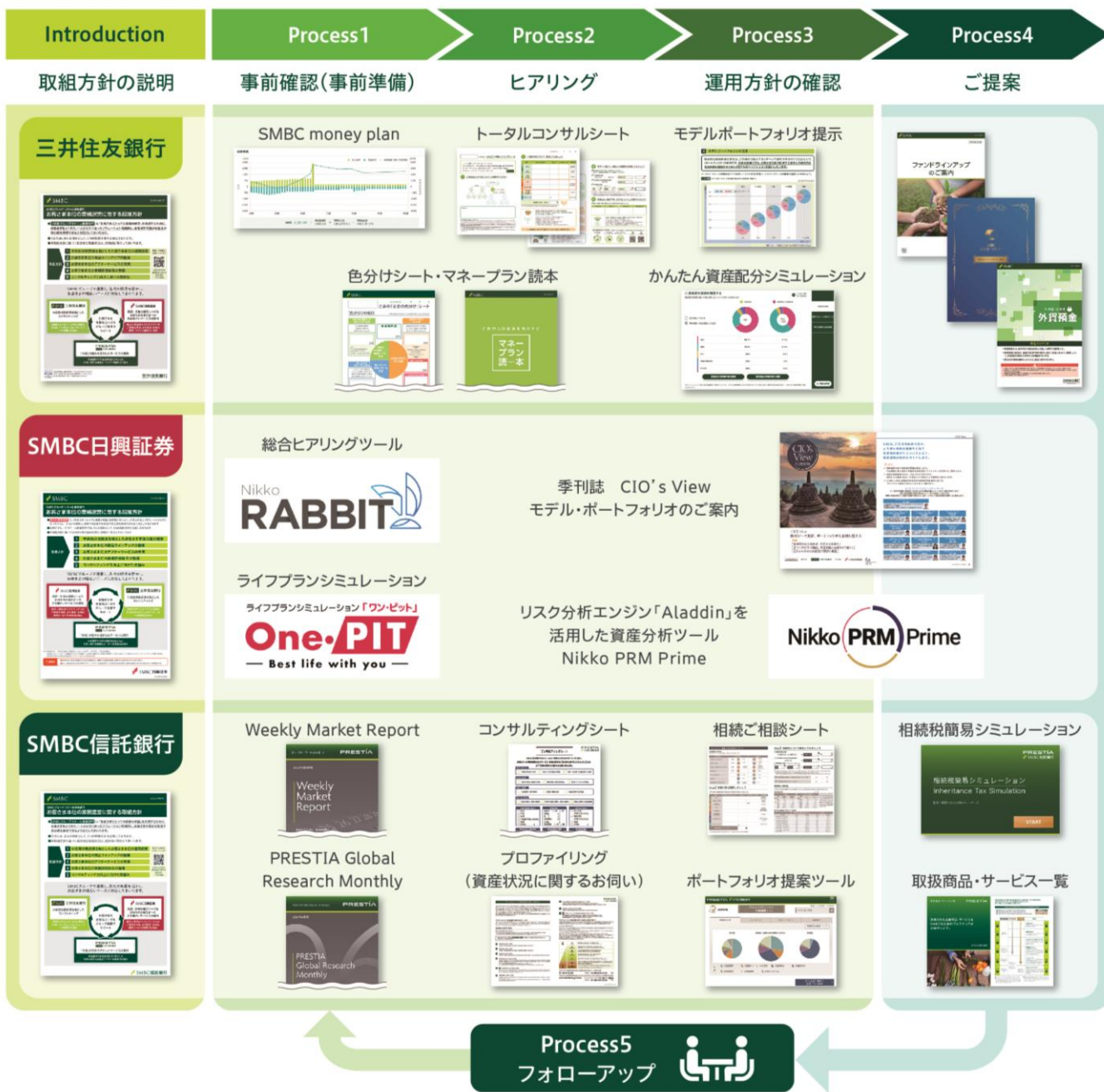


参考 総資産を踏まえた中長期分散提案

お客さまの総資産を踏まえ、SMBCグループで連携し、各社の特長を活かし、各種ツールにより、お客さま一人ひとりにあったお金の持ち方のご提案に努めております。

- SMBCグループでは共通の目線でお客さまにヒアリング、ご提案、フォローアップを行うことで、お客さまの意向を踏まえた、ソリューションをグループベースでご提供します。
- また、グループ統一のProcessでご提案を行うことにより、いつ、どこに、ご相談いただいても、高い水準感でのご提案を提供できるよう努めており、安心してご相談いただくことができます。
- Processに沿ったヒアリングやフォローアップを通して、お客さまへの対応の質を高めて、満足度向上に努めてまいります。

銀行 日興 信託 グループ統一のお客さま本位の運用提案 Process5



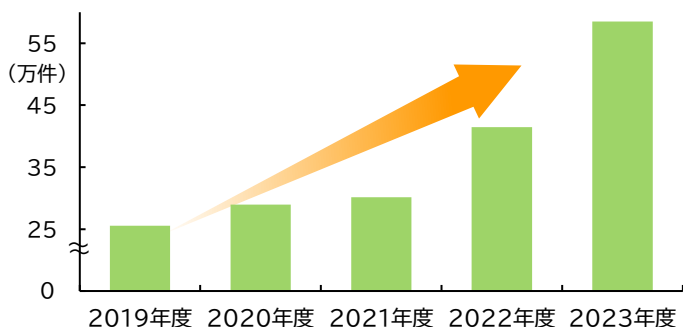
取組方針 1 中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案

参考 各社の特長を活かしたお客さま本位の運用提案の徹底

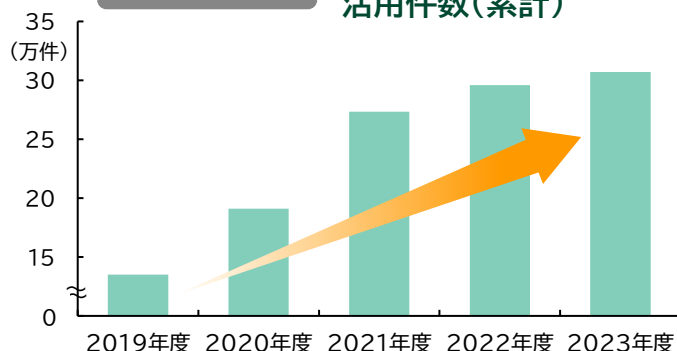
銀行

- お客さまの目的・目標を実現するために、資産全体のヒアリングに注力しています。
- お客さまのライフイベント・収支・ご資産等をお伺いし、ご資金の使いみちや目的を確認するために、保有資産の色分けや、マネープランの作成等を行います。

Introduction 「取組方針」リーフレット
活用件数(累計)



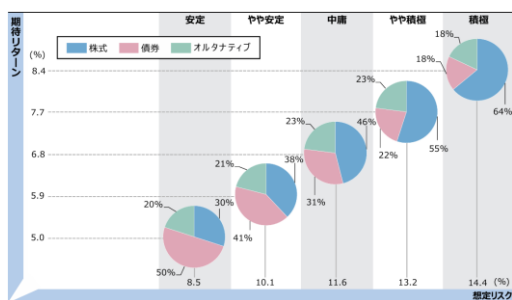
Process1 お金の色分けシート
活用件数(累計)



日興

- お客さまの属性情報のみならず、中長期分散投資意向のご確認や、CIOモデル・ポートフォリオを用いた運用方針のすり合わせを行い、高度な資産運用コンサルティングの提供に努めております。
- 世界最高峰のリスク分析ツールであるNikko PRM Primeを用いて、お客さまの資産全体を個別銘柄単位で分析し、お客さまの投資判断をサポートしております。

<CIOモデル・ポートフォリオ>



<Nikko PRM Prime>



信託

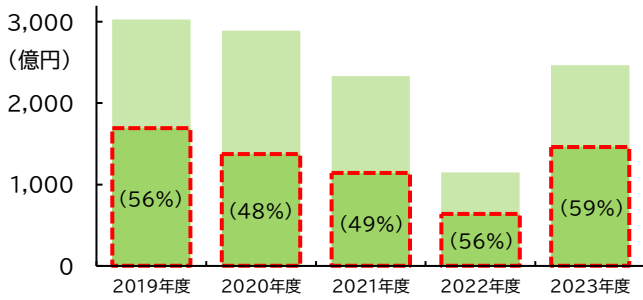
- お客さまのご意向やライフプランを踏まえ、プロファイリングをベースにコンサルティングを実施すると共に、お客さまの中長期分散投資を後押しする様々なツールをご用意しております。
- リスク等も含めた商品性を十分理解していただくと共に、プロファイリングシートを用いてリスク許容度を定量的に判断し、お客さまへの最適な商品選定・コンサルティングの提供に努めております。
- モデルポートフォリオを用いたアセットクラスのご説明を行うと共に、お客さまのニーズ解決策として複数の商品を選定しご提案いたします。

7 外貨定期預金預入額・外貨預金残高

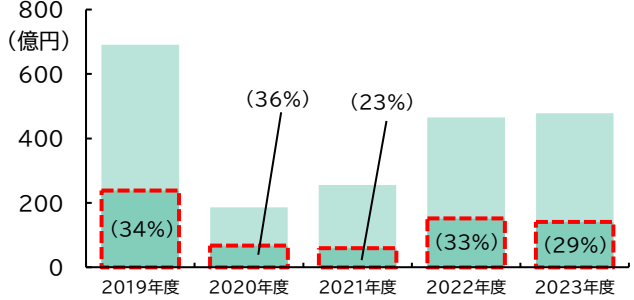
- 通貨分散の手段や導入商品として外貨定期預金の活用をご提案。

外貨定期預金預入額

銀行



信託

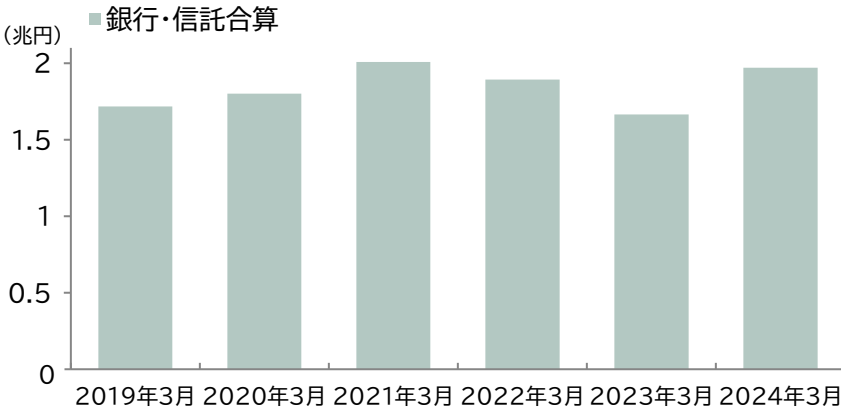


※ 赤い点線は新規のお客さまの割合 ※ 円を原資に取り組んだ外貨定期預金の金額
 ※ 「新規のお客さまの割合」は、上記のうち前期末に外貨預金残高の無いお客さまの預入額の比率

外貨預金残高(時価ベース)

銀行

信託



	2023年3月末	2024年3月末
銀行	6,719億円	8,427億円
信託	9,925億円	11,268億円

参考 外貨保有の意義

- 他の通貨も含めた総合的な日本円の価値[※]は大きく変動しています。
- インフレや為替変動などの外的要因から資産を守るため、外貨の保有が大切です。
- SMBCグループでは、外貨に関する多様なニーズにお応えできるよう、様々なサービスをご用意しております。(詳細はP40を参照)

日本円の実質実効為替レート推移



	日本円建資産のみの場合	外貨建資産も組み入れた場合
円高 (円安)	円 実質的価値が増加 円	外貨 実質的価値を維持しやすい 外貨 円 円
変化なし	円 価値の変化なし 円	外貨 価値の変化なし 外貨 円 円
円安 (円高)	円 実質的価値が減少 円	外貨 実質的価値を維持しやすい 外貨 円 円

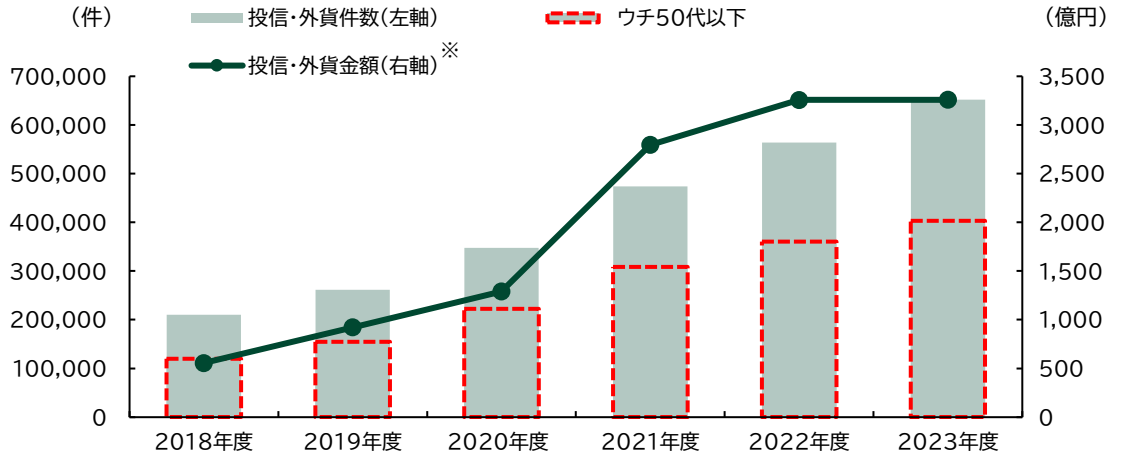
※ 実質実効為替レート：相対的な通貨の実力を図るための総合的な指標。指数が高いほど購買力があり、外国製品を格安に購入できることを示す。

3 時間分散に関するご提案

- 「これから資産を形成していきたい」というお客さまのニーズにお応えするため、投資信託、外貨自動積立の「時間分散」提案に積極的に努めてきた結果、投資信託・外貨自動積立の件数は、着実に増加。

8 9 投資信託・外貨自動積立(件数・金額)

銀行 日興 信託



※ 投資信託・外貨自動積立の1年間の積立金額合計

※ SBI証券仲介分は含まず

10 NISA口座数

銀行 日興

<2024年3月末時点>

NISA口座数	前年比
177万件	+43万件

※ SMBCグループにおけるSBI証券仲介分を含む

- お客さまが中長期分散投資の重要性を体感できるように努め、資産形成のすそ野拡大に貢献するためにも、NISAをご提案しております。
- 2024年3月時点のNISA口座数は前年同月比、32%増加と貢献。(日本全体の増加率は24%(※))

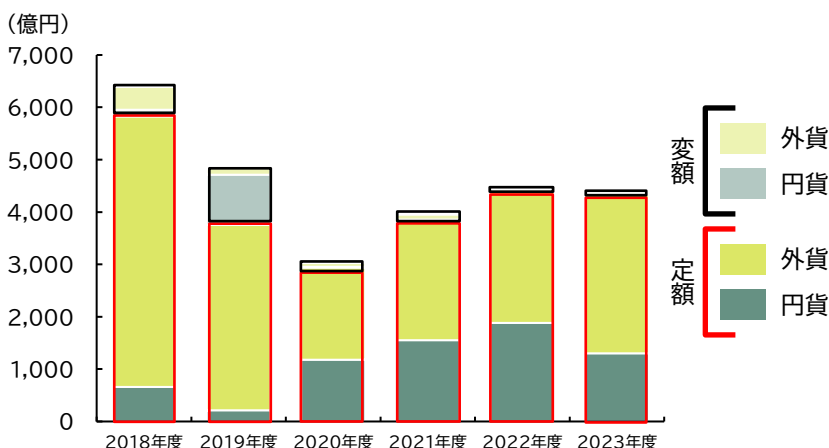
(※) 「NISA口座の利用状況調査」(金融庁)
(<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20240612.html>)
をもとに、株式会社三井住友フィナンシャルグループ作成

4 保険商品活用のご提案

- 保険が元来有する「年金」「遺す」「贈る」といった機能に着目したコンサルティングを継続。お客さまのニーズに応じた、ご提案を実施。

11 一時払保険の商品別販売額

銀行 日興 信託



「年金」

お客さまに、これからの過ごし方について考えていただき、適切な資産の持ち方をご選択いただいております。

「遺す・贈る」

お客さまご自身に、万一のことがあった場合に、ご家族等大切な方へ確実に遺すため、適切な商品をご選択いただいております。

お客さま本位の 商品ラインアップの整備

お客さまのニーズを的確に捉え、グローバル水準でより優れた商品の開発に努めるとともに、経済環境・市場動向を踏まえてグループ会社(※)であるか否かに関わらず、必要に応じ第三者評価も取り入れ、幅広い運用会社・保険会社等からお客さまのニーズに合った商品を取り揃えてまいります。また、商品導入後も継続的なモニタリングを行い、品質を維持してまいります。

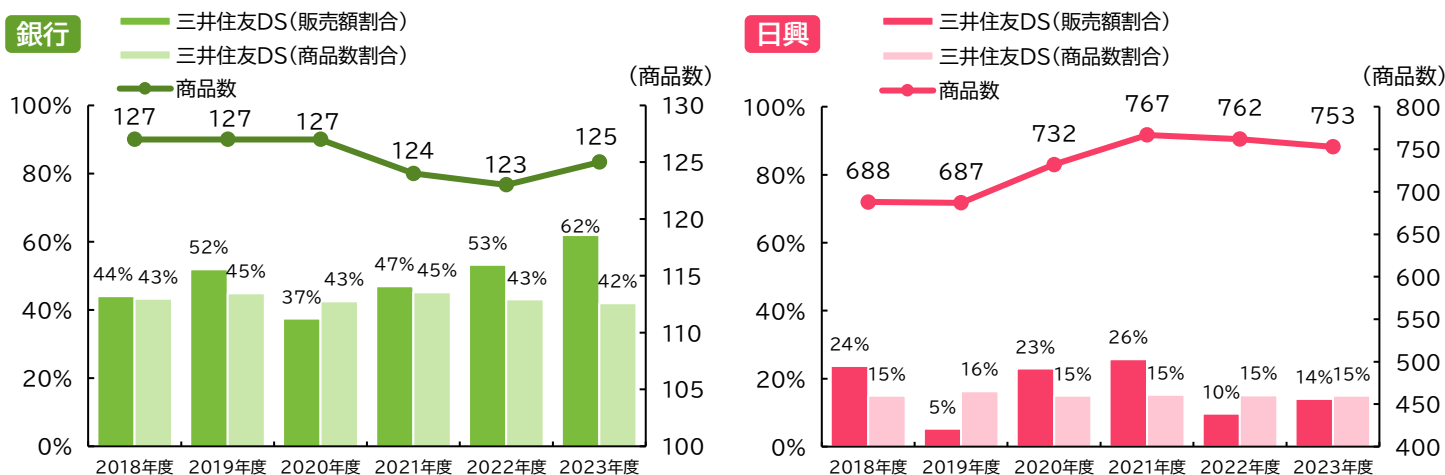
- これから資産運用を始められるお客さまや、リスクを抑えた資産運用を行いたいとお考えのお客さまのニーズに幅広くお応えするため、ラインアップを拡充しております。また、外貨預金等の外貨建資産について、主に為替リスクに限定した商品をご希望される方に加え、資産価値の安定化の観点からもご提案しております。
- 毎月決算型投資信託は、「資産を取り崩しながら運用するニーズ」に応える商品性と位置づけています。受け取られた分配金をお使いになるニーズがない場合や、中長期の資産形成を目的とした積立や分配金再投資をご希望の場合などには、資産成長型(年1回決算型等)のご提案等を行っております。
- 販売する商品の特性・リスク・運用実績・手数料・取引条件やその商品をお奨めする理由、お客さまとの利益相反の可能性がある場合には、その具体的内容と影響、経済環境・市場動向等に関する情報について、お客さまや商品の特性・リスクを踏まえ、分かりやすくご提供するとともに、情報の充実にも努めております。
- お客さまにお示しするパンフレットや書類等については、ユニバーサルデザインを意識し、分かりやすさの工夫に努めております。

(※)グループ会社：三井住友DSアセットマネジメント株式会社(以下、三井住友DS)

1 グループ会社商品の販売状況

- **銀行** 2023年度はグループ会社商品比率は、販売額で62%、商品数で42%。
- **日興** 2023年度はグループ会社商品比率は、販売額で14%、商品数で15%。

12 投資信託のグループ会社商品比率

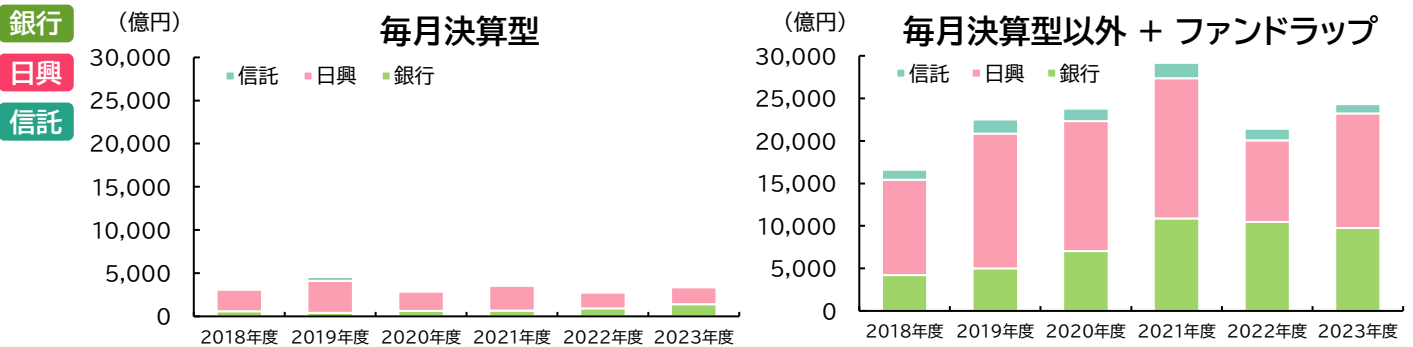


信託 2023年度末時点ではグループ会社商品の取り扱いなし。

2 投資信託(毎月決算型商品等)の販売状況

- 毎月決算型以外の投資信託・ファンドラップの販売・契約額は、毎月決算型の投資信託の販売額を大きく上回っている状況。
- 引き続き複利効果(*)を丁寧に説明し、お客さまの中長期分散投資に資するご提案に努めてまいります。
(*)複利効果:投資資金を運用して得られた利益が更に運用されて増えていく効果

13 投資信託(含むファンドラップ)販売(契約)額(毎月決算型とそれ以外の別)



参考 投資信託に関する管理プロセス

銀行

導入時	随時	<ul style="list-style-type: none"> 日興グローバルラップ社(*)による、運用調査体制の充実度や運用管理体制等、主に定性面を含めた評価を実施。
運用開始後	通年	<ul style="list-style-type: none"> 取扱い全ファンドの中から選定した主要ファンドについて、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング社の定性分析による運用体制等のモニタリングを実施。 残高が少なく今後の残高拡大が見込めないファンド等、長期的な資産形成に資する商品の品質を維持できない可能性があるファンドは償還の促進・販売停止を検討し、ラインアップの適正化を行う。
	年次	<ul style="list-style-type: none"> 特に多くのお客さまにお持ちいただいているファンドについて、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング社による、業界全体における相対評価の視点を踏まえた定量分析を実施。 日興グローバルラップ社(*)による、取扱い全ファンドの定量・定性両面から5段階評価を実施し、異常値をチェック。

日興

導入時	随時	<ul style="list-style-type: none"> 運用会社から提案された商品案を、ベストプロダクト・ポリシーに基づき採用の可否につき検討。導入にあたっては、運用会社の運用実績、運用能力および運用管理体制等、複合的な審査を行う。
運用開始後	通年	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスと比較し、過度に分配金を出しているファンドの分配方針と分配金引下げの有無を確認。 他社取扱いも含めた日本国内の公募ファンドを社内で独自に分類の上、取扱い全ファンドについてパフォーマンスの優劣を日次でモニタリング。残高が少なく今後の残高拡大が見込めないファンド等、長期的な資産形成に資する商品の品質を維持できない可能性があるファンドは償還の促進・販売停止を検討し、ラインアップの適正化を行う。
	年次	<ul style="list-style-type: none"> 多くのお客さまにお持ちいただいているファンドや直近導入したファンドについては、外部機関による定量・定性分析も実施。

信託

導入時	随時	<ul style="list-style-type: none"> RFI(情報提供依頼書)および運用会社との個別ミーティング、現地調査等を踏まえ、普遍性・本質性・再現性の観点から長期持続性のあるプロダクトを選定。
運用開始後	半年	<ul style="list-style-type: none"> ウエルスアドバイザー社による全取扱い投資信託の定量分析を実施し、運用状況をモニタリング。 資産クラスおよびボラティリティから商品のリスクをスコア化し、妥当性を検証の上、変更を検討。
	年次	<ul style="list-style-type: none"> ウエルスアドバイザー社による運用会社インタビュー等を通じた定量・定性分析を実施し、運用状況、運用者等の詳細情報をモニタリング。低評価となったファンドについては、背景等の精査を行い、低評価要因が構造的要因(回復見込みなし)によるものと判断したファンドについては、販売状況や販売抑制の必要性の度合いに応じて、勧誘不可もしくは募集停止の取扱いとする。 総合評価にて取扱いステータスやプロダクトレーティングの妥当性を検証。

(※) 日興グローバルラップ社は2024年10月1日にSMBCグローバル・インベストメント&コンサルティング株式会社に商号変更予定

3 投資信託販売会社における比較可能な成果指標

- 2018年6月に金融庁より公表された「投資信託販売会社における比較可能な成果指標(共通KPI)について」の中で定義された指標の検証結果。

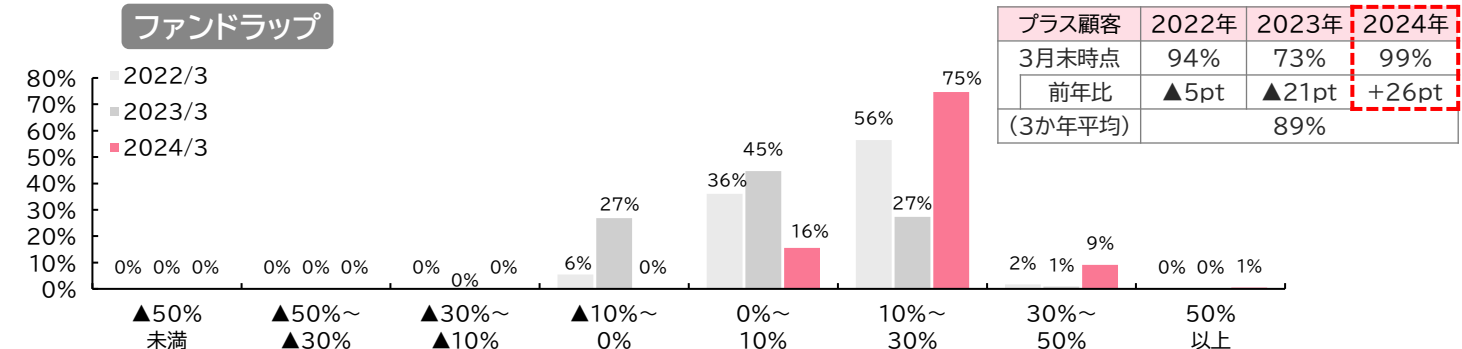
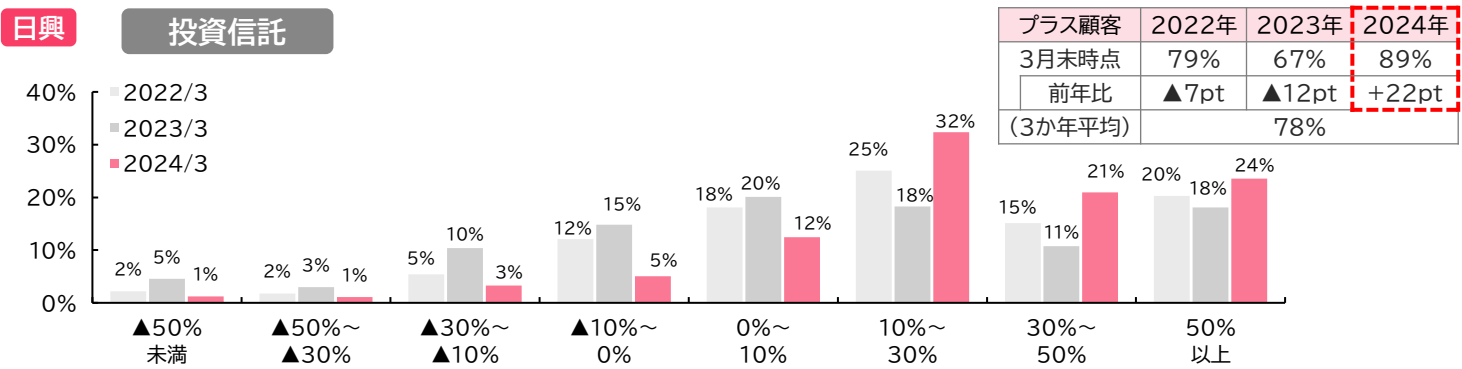
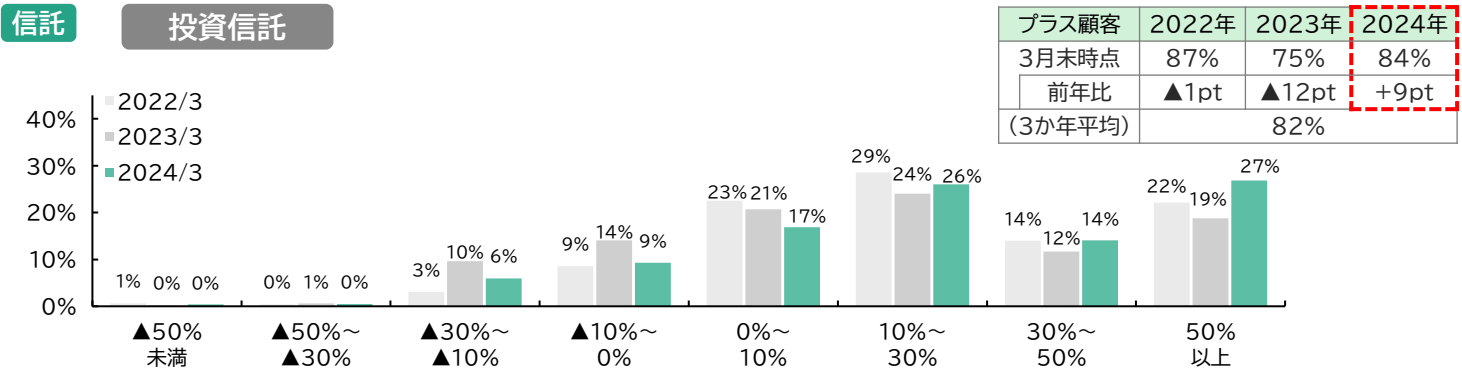
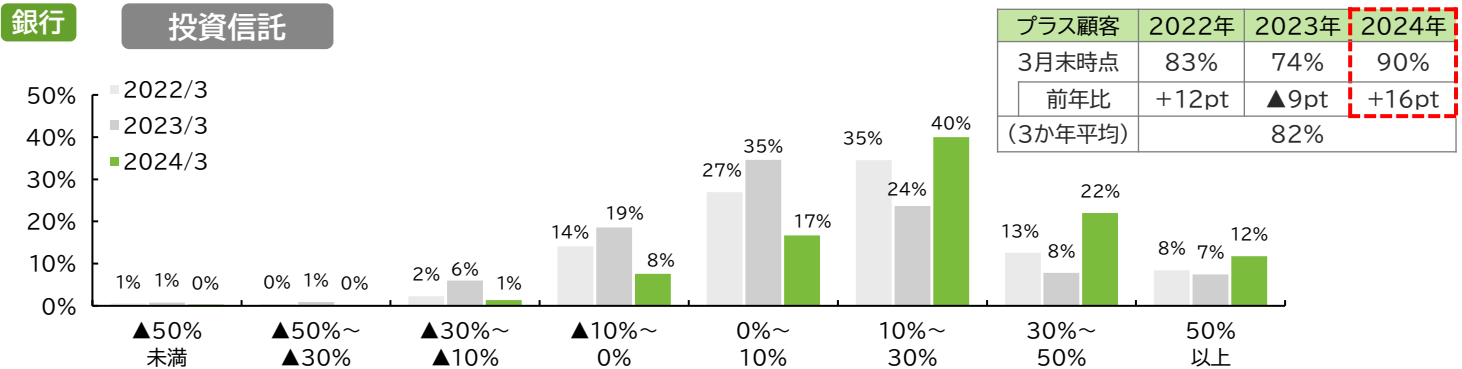
【共通KPI】

- ✓ 「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」(2018/6金融庁公表)の定義に沿って算出
- ✓ 各時点で解約済みの銘柄は含まず
- ✓ 運用損益比率=トータルリターン/時価評価額

14 投資信託・ファンドラップの運用損益別顧客比率

共通KPI

※運用損益別顧客比率「0%」表記には、1%未満を含む(小数点以下は四捨五入)。

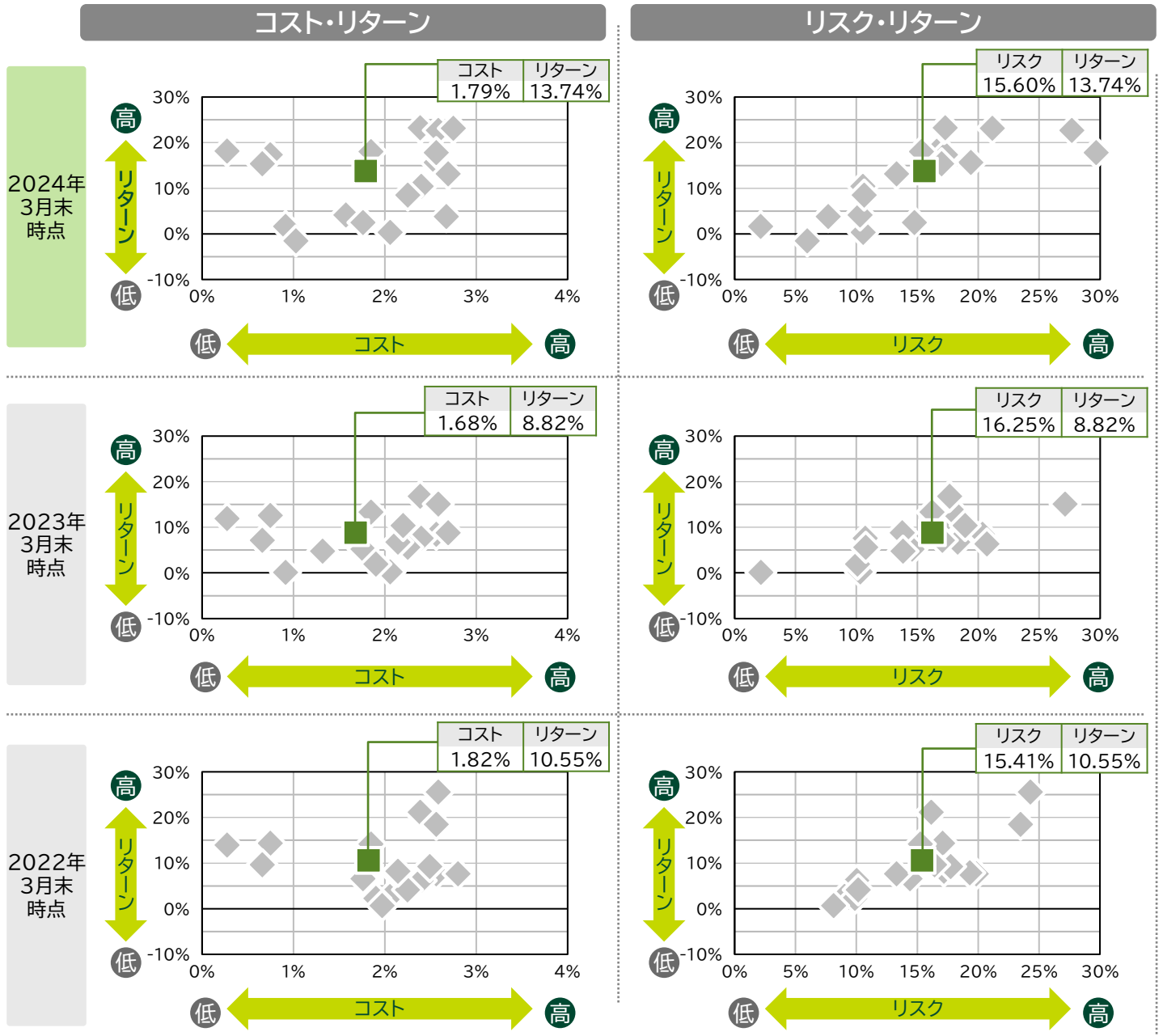


15 16 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン、リスク・リターン

共通KPI

銀行 残高上位20銘柄について示しております。相場が上昇した結果、2024年3月末時点では、残高上位20銘柄中、18銘柄でリターンがコストを上回っております。

■ 残高加重平均値



※ 2024年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ ※ コスト: 販売手数料率(税込)/5+信託報酬率
 ※ リスク: 過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算) ※ リターン: 過去5年間のトータルリターン(月次ベースを年率換算)

参考 コスト・リターン・リスク3か年推移

	コスト		リターン		リスク	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2024年3月末	1.79%	+0.11pt	13.74%	+4.92pt	15.60%	△0.65pt
2023年3月末	1.68%	△0.14pt	8.82%	▲1.73pt	16.25%	+0.84pt
2022年3月末	1.82%	△0.05pt	10.55%	+2.87pt	15.41%	+1.54pt

15 16 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン、リスク・リターン

共通KPI

銀行

2024年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	インバスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	2.56%	19.39%	15.71%
2	ダブル・ブレイン	2.67%	7.69%	3.80%
3	三井住友・DCつみたてNISA・全海外株インデックスファンド	0.28%	16.63%	18.21%
4	三井住友・225オープン	0.66%	17.08%	15.45%
5	三井住友・NYダウ・ジョーンズ指数オープン(為替ヘッジなし)	0.75%	17.31%	17.37%
6	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2.39%	17.18%	23.15%
7	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(毎月決算型)B(為替ヘッジなし)	2.40%	10.54%	10.46%
8	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	2.39%	17.29%	23.28%
9	日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	2.69%	13.30%	13.19%
10	SMBC円資産ファンド	0.91%	2.15%	1.67%
11	グローバルAIファンド	2.59%	27.67%	22.74%
12	JPMベスト・インカム(毎月決算型)	2.06%	10.55%	0.38%
13	三井住友・豪ドル債ファンド	1.57%	10.30%	4.18%
14	GS ハイ・イールド・ボンド・ファンド	2.25%	10.63%	8.55%
15	USテクノロジー・イノベーションズ・ファンド	2.56%	29.68%	17.83%
16	日系企業海外債券オープン(為替ヘッジあり)	1.03%	5.98%	▲1.51%
17	エス・ビー・日本株オープン225	0.66%	17.00%	15.38%
18	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	1.76%	14.76%	2.54%
19	グローバル好配当株オープン	1.85%	15.34%	18.09%
20	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	21.15%	23.19%
	残高加重平均値	1.79%	15.60%	13.74%

2023年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	インバスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	2.56%	20.35%	8.45%
2	三井住友・225オープン	0.66%	17.11%	7.12%
3	三井住友・DCつみたてNISA・全海外株インデックスファンド	0.28%	17.42%	11.93%
4	三井住友・NYダウ・ジョーンズ指数オープン(為替ヘッジなし)	0.75%	18.26%	12.58%
5	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2.39%	17.56%	16.69%
6	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	2.40%	10.72%	7.59%
7	JPMベスト・インカム(毎月決算型)	2.06%	10.32%	0.21%
8	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	1.76%	14.58%	5.25%
9	三井住友・豪ドル債ファンド	1.90%	10.08%	1.92%
10	日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	2.69%	13.76%	8.80%
11	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	2.39%	17.66%	16.79%
12	GS ハイ・イールド・ボンド・ファンド	2.25%	10.77%	5.60%
13	ゴールドマン・サックス米国REITファンドBコース(為替ヘッジなし)	2.12%	20.70%	6.38%
14	グローバル好配当株オープン	1.85%	16.21%	13.33%
15	SMBC円資産ファンド	0.91%	2.16%	0.11%
16	グローバルREITオープン	2.15%	18.31%	6.74%
17	グローバルAIファンド	2.59%	27.13%	15.08%
18	エス・ビー・日本株オープン225	0.66%	17.05%	7.13%
19	フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	2.20%	18.92%	10.40%
20	ピクテ・ゴールド(為替ヘッジあり)	1.32%	13.83%	4.79%
	残高加重平均値	1.68%	16.25%	8.82%

2022年3月末時点

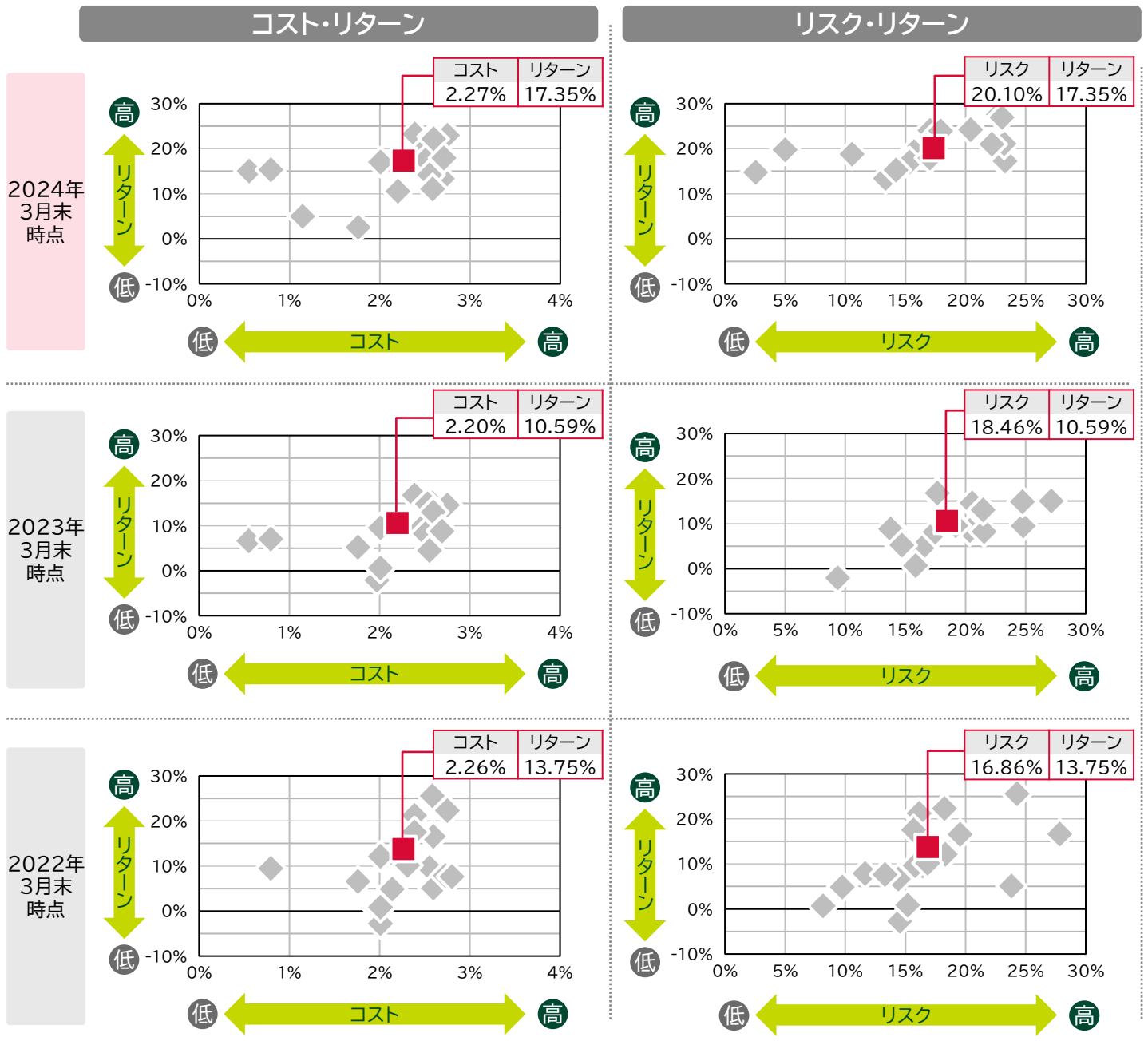
	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	三井住友・225オープン	0.66%	16.49%	9.65%
2	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2.39%	16.06%	21.09%
3	三井住友・DCつみたてNISA・全海外株インデックスファンド	0.28%	16.62%	13.96%
4	インバスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	2.56%	19.85%	7.67%
5	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	2.40%	10.02%	6.22%
6	JPMベスト・インカム(毎月決算型)	2.06%	9.03%	2.75%
7	三井住友・豪ドル債ファンド	1.90%	9.87%	2.31%
8	三井住友・NYダウ・ジョーンズ指数オープン(為替ヘッジなし)	0.75%	17.07%	14.38%
9	ゴールドマン・サックス米国REITファンドBコース(為替ヘッジなし)	2.12%	19.31%	7.89%
10	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	1.76%	14.40%	6.62%
11	GS ハイ・イールド・ボンド・ファンド	2.25%	10.16%	4.14%
12	日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	2.80%	13.29%	7.67%
13	グローバルREITオープン	2.15%	17.18%	8.26%
14	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	2.39%	16.15%	21.21%
15	アジア好利回りリート・ファンド	2.49%	17.74%	9.25%
16	グローバル好配当株オープン	1.85%	15.26%	14.19%
17	グローバルAIファンド	2.59%	24.29%	25.61%
18	日興グローバル金融機関ハイブリッド証券ファンド(クラスB)	1.97%	8.14%	0.68%
19	USテクノロジー・イノベーションズ・ファンド	2.56%	23.48%	18.52%
20	エス・ビー・日本株オープン225	0.66%	16.42%	9.64%
	残高加重平均値	1.82%	15.41%	10.55%

15 16 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン、リスク・リターン

共通KPI

日興 残高上位20銘柄について示しております。相場が上昇した結果、2024年3月末時点では、残高上位20銘柄中、20銘柄の全銘柄でリターンがコストを上回っております。

■ 残高加重平均値



※ 2024年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ ※ コスト: 販売手数料率(税込)/5+信託報酬率
 ※ リスク: 過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算) ※ リターン: 過去5年間のトータルリターン(月次ベースを年率換算)

参考 コスト・リターン・リスク3か年推移

	コスト		リターン		リスク	
		前年比		前年比		前年比
2024年3月末	2.27%	+0.07pt	17.35%	+6.76pt	20.10%	+1.64pt
2023年3月末	2.20%	△0.06pt	10.59%	▲3.16pt	18.46%	+1.60pt
2022年3月末	2.26%	+0.10pt	13.75%	+4.91pt	16.86%	+2.55pt

15 16 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン、リスク・リターン

共通KPI

日興

2024年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2.39%	17.18%	23.15%
2	インバスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)(愛称:世界のベスト)	2.56%	19.39%	15.71%
3	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	2.39%	17.29%	23.28%
4	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	1.76%	14.76%	2.54%
5	グローバルAIファンド	2.59%	27.67%	22.74%
6	フィデリティ・USリート・ファンド B(為替ヘッジなし)	2.20%	18.82%	10.56%
7	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	21.15%	23.19%
8	HSBC インド・インフラ株式オープン	2.75%	26.98%	23.02%
9	モビリティ・イノベーション・ファンド	2.46%	24.07%	17.04%
10	日経225ノーロードオープン	0.55%	17.03%	15.03%
11	インデックスファンド225	0.79%	17.02%	15.33%
12	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	1.14%	19.79%	4.99%
13	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	2.53%	24.26%	20.42%
14	GS グローバル・ビッグデータ投資戦略Bコース(為替ヘッジなし)	2.01%	17.92%	17.03%
15	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド(愛称:THE 5G)	2.51%	22.85%	17.55%
16	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.60%	21.01%	22.19%
17	日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	2.69%	13.41%	13.34%
18	日興ジャパンオープン(愛称:ジパング)	2.55%	15.28%	14.22%
19	グローバル・フィンテック株式ファンド	2.59%	35.86%	11.09%
20	高成長インド・中型株式ファンド	2.71%	23.99%	17.92%
	残高加重平均値	2.27%	20.10%	17.35%

2023年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2.39%	17.56%	16.69%
2	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	1.76%	14.58%	5.25%
3	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	2.39%	17.66%	16.79%
4	フィデリティ・USリート・ファンド B(為替ヘッジなし)	2.20%	18.92%	10.40%
5	グローバルAIファンド	2.59%	27.13%	15.08%
6	モビリティ・イノベーション・ファンド	2.46%	24.80%	9.51%
7	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	20.53%	14.60%
8	日経225ノーロードオープン	0.55%	17.06%	6.68%
9	インバスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)(愛称:世界のベスト)	2.56%	20.35%	8.45%
10	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	2.53%	24.72%	14.87%
11	日興グローバル金融機関ハイブリッド証券ファンド(クラスB)	1.97%	9.36%	▲2.05%
12	インデックスファンド225	0.79%	17.06%	7.03%
13	GS グローバル・ビッグデータ投資戦略Bコース(為替ヘッジなし)	2.01%	19.19%	9.57%
14	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド(愛称:THE 5G)	2.51%	21.54%	8.24%
15	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.60%	21.45%	13.09%
16	日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	2.69%	13.87%	8.93%
17	日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	2.69%	13.76%	8.80%
18	日興ジャパンオープン(愛称:ジパング)	2.55%	16.35%	4.53%
19	ニッポン・オフショア・ファンズ - 新興国社債オープン 円ヘッジなし毎月分配型クラスB	2.01%	15.85%	0.68%
20	J-REIT・リサーチ・オープン(年2回決算型)	1.76%	14.70%	5.25%
	残高加重平均値	2.20%	18.46%	10.59%

2022年3月末時点

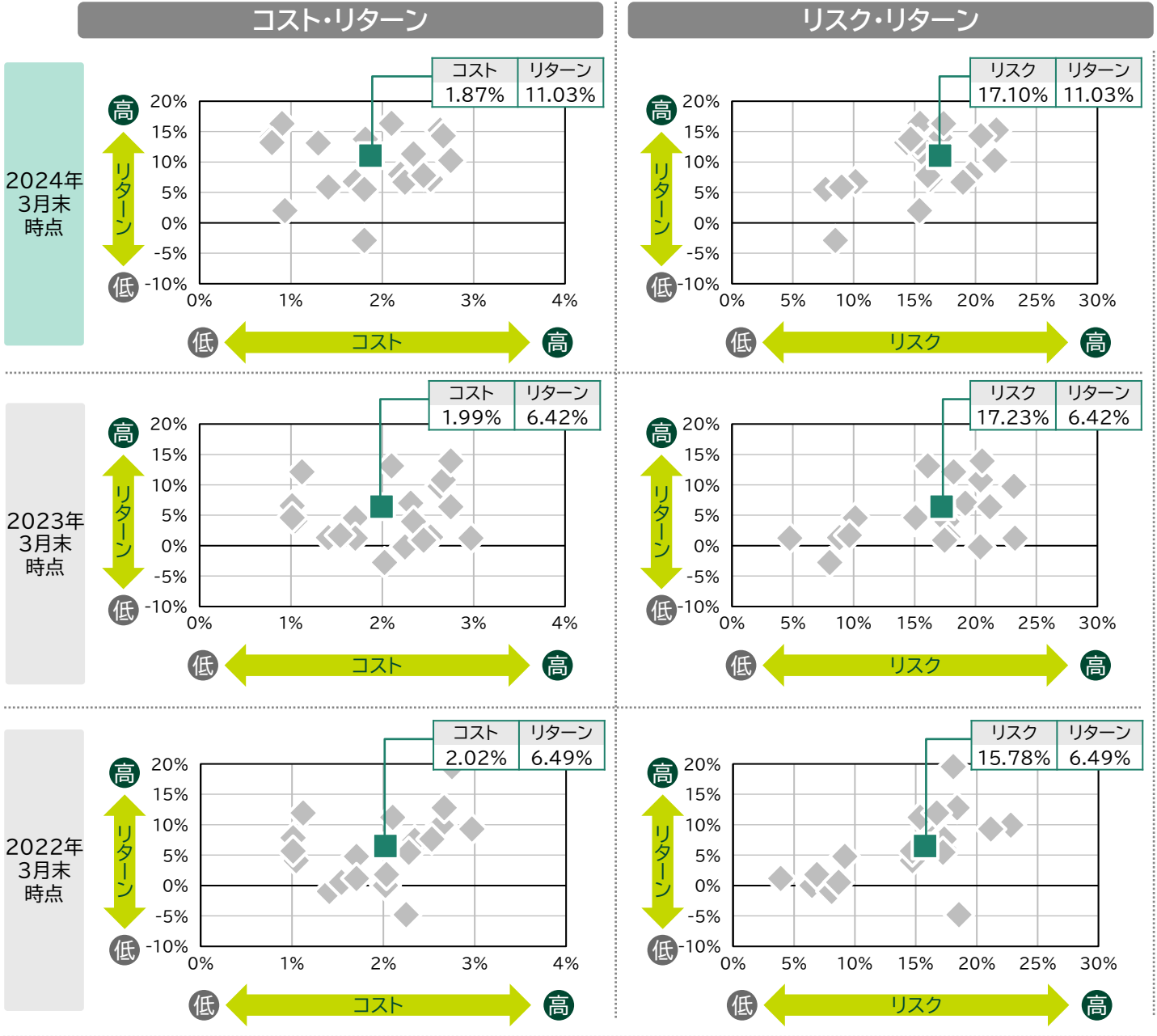
	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2.39%	16.06%	21.09%
2	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	1.76%	14.40%	6.62%
3	グローバルAIファンド	2.59%	24.29%	25.61%
4	フィデリティ・USリート・ファンド B(為替ヘッジなし)	2.20%	17.45%	11.53%
5	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	2.39%	16.15%	21.21%
6	日興グローバル金融機関ハイブリッド証券ファンド(クラスB)	1.97%	8.15%	0.68%
7	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	18.24%	22.31%
8	GS グローバル・ビッグデータ投資戦略Bコース(為替ヘッジなし)	2.01%	18.32%	12.16%
9	グローバル・フィンテック株式ファンド	2.59%	27.84%	16.60%
10	ニッポン・オフショア・ファンズ - 新興国社債オープン 円ヘッジ毎月分配型クラスB	2.01%	14.52%	▲2.75%
11	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.60%	19.54%	16.57%
12	ニッポン・オフショア・ファンズ - 新興国社債オープン 円ヘッジなし毎月分配型クラスB	2.01%	15.20%	0.84%
13	インデックスファンド225	0.79%	16.44%	9.51%
14	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Cコース毎月決算型(為替ヘッジあり)予想分配金提示型	2.39%	15.69%	17.53%
15	日興ジャパンオープン(愛称:ジパング)	2.55%	15.81%	9.65%
16	LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	2.60%	23.82%	5.13%
17	ニッポン・オフショア・ファンズ - 利回り債券3分法ファンド 円建ヘッジなし毎月分配型クラスB	2.14%	9.75%	4.87%
18	日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	2.73%	11.63%	7.91%
19	日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	2.31%	16.85%	10.18%
20	日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	2.80%	13.29%	7.67%
	残高加重平均値	2.26%	16.86%	13.75%

15 16 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン、リスク・リターン

共通KPI

信託 残高上位20銘柄について示しております。相場が上昇した結果、2024年3月末時点では、残高上位20銘柄中、19銘柄でリターンがコストを上回っております。

■ 残高加重平均値



※ 2024年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ ※ コスト:販売手数料率(税込)/5+信託報酬率
 ※ リスク:過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算) ※ リターン:過去5年間のトータルリターン(月次ベースを年率換算)

参考 コスト・リターン・リスク3か年推移

	コスト		リターン		リスク	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2024年3月末	1.87%	△0.12pt	11.03%	+4.61pt	17.10%	△0.13pt
2023年3月末	1.99%	△0.03pt	6.42%	▲0.07pt	17.23%	+1.45pt
2022年3月末	2.02%	△0.10pt	6.49%	+0.02pt	15.78%	+0.09pt

15 16 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン、リスク・リターン

共通KPI

信託

2024年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	2.20%	19.61%	7.99%
2	インデックスファンド225	0.79%	17.08%	14.00%
3	ドイチェ・インド株式ファンド	2.64%	21.72%	15.27%
4	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.71%	10.15%	6.79%
5	グローバル高配当株式ファンド(毎月分配型)(愛称:軍配)	2.10%	15.45%	16.37%
6	インデックスファンドNYダウ30(アメリカ株式)	0.90%	17.37%	16.29%
7	インデックスファンドJリート	0.94%	15.40%	2.00%
8	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	21.13%	20.58%
9	フィデリティ・日本成長株・ファンド	2.34%	15.72%	11.35%
10	GS 米国成長株集中投資ファンド 年4回決算コース	2.67%	20.44%	14.33%
11	DWS ブラジル・リアル債券ファンド(毎月分配型)	2.25%	18.98%	6.69%
12	インデックスファンドTSP	0.79%	14.35%	13.19%
13	ブラックロック世界好配当株式オープン(愛称:世界の息吹)(オンライン専用)	1.30%	15.27%	13.10%
14	DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型) Bコース(為替ヘッジなし)	1.80%	7.68%	5.52%
15	世界のサイフ	1.41%	9.01%	5.89%
16	JPM ジャパンマイスター(オンライン専用)	1.82%	14.69%	13.74%
17	DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型) Aコース(為替ヘッジあり)	1.80%	8.50%	▲2.88%
18	スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)	2.53%	16.27%	7.17%
19	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Aコース(為替ヘッジあり)	2.75%	21.58%	10.28%
20	フィデリティ・日本小型株・ファンド	2.45%	16.09%	7.80%
	残高加重平均値	1.87%	17.10%	11.03%

2023年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	2.31%	19.16%	6.99%
2	インデックスファンド225	1.01%	17.06%	6.59%
3	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.71%	10.14%	4.57%
4	ドイチェ・インド株式ファンド	2.64%	23.16%	9.77%
5	グローバル高配当株式ファンド(毎月分配型)(愛称:軍配)	2.10%	16.07%	13.11%
6	インデックスファンドJリート	1.05%	15.01%	4.09%
7	フィデリティ・日本成長株・ファンド	2.34%	17.65%	3.99%
8	DWS ブラジル・リアル債券ファンド(毎月分配型)	2.25%	20.40%	▲0.21%
9	GS 米国成長株集中投資ファンド 年4回決算コース	2.67%	20.41%	10.82%
10	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	20.53%	13.94%
11	インデックスファンドNYダウ30(アメリカ株式)	1.12%	18.21%	12.17%
12	DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型) Aコース(為替ヘッジあり)	2.02%	8.03%	▲2.76%
13	日興AM中国A株ファンド(愛称:黄河)	2.97%	23.24%	1.25%
14	世界のサイフ	1.41%	8.84%	1.33%
15	インデックスファンドTSP	1.01%	15.08%	4.62%
16	スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)	2.53%	17.73%	1.40%
17	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Aコース(為替ヘッジあり)	2.75%	21.18%	6.42%
18	フィデリティ・日本小型株・ファンド	2.45%	17.46%	0.92%
19	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.71%	4.75%	1.27%
20	UBSオーストラリア債券オープン(毎月分配型)	1.54%	9.64%	1.70%
	残高加重平均値	1.99%	17.23%	6.42%

2022年3月末時点

	ファンド名	コスト	リスク	リターン
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	2.31%	17.3%	6.1%
2	インデックスファンド225	1.01%	16.4%	7.9%
3	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.71%	9.2%	4.8%
4	ドイチェ・インド株式ファンド	2.64%	22.8%	9.9%
5	インデックスファンドJリート	1.05%	14.7%	4.1%
6	グローバル高配当株式ファンド(毎月分配型)(愛称:軍配)	2.10%	15.4%	11.2%
7	DWS ブラジル・リアル債券ファンド(毎月分配型)	2.25%	18.6%	▲4.8%
8	フィデリティ・日本成長株・ファンド	2.34%	17.0%	7.4%
9	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.75%	18.1%	19.5%
10	GS 米国成長株集中投資ファンド 年4回決算コース	2.67%	18.4%	12.8%
11	DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型) Aコース(為替ヘッジあり)	2.02%	6.5%	0.0%
12	JPM グローバル債券3分散ファンド(毎月決算型)	2.04%	6.9%	1.8%
13	日興AM中国A株ファンド(愛称:黄河)	2.97%	21.2%	9.3%
14	世界のサイフ	1.41%	8.1%	▲1.0%
15	インデックスファンドNYダウ30(アメリカ株式)	1.12%	16.7%	11.9%
16	インデックスファンドTSP	1.01%	14.7%	5.7%
17	スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)	2.53%	17.3%	7.6%
18	UBSオーストラリア債券オープン(毎月分配型)	1.54%	8.7%	0.5%
19	JPM アジア・オセアニア高配当株式ファンド(愛称:アジアの風)	2.28%	17.2%	5.5%
20	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.71%	3.9%	1.2%
	残高加重平均値	2.02%	15.78%	6.49%

17 18 外貨建保険の運用評価別顧客比率、銘柄別コスト・リターン

共通KPI

- 2022年1月に金融庁より公表された「外貨建保険の販売会社における比較可能な共通KPIについて」の中で定義された指標の検証結果。

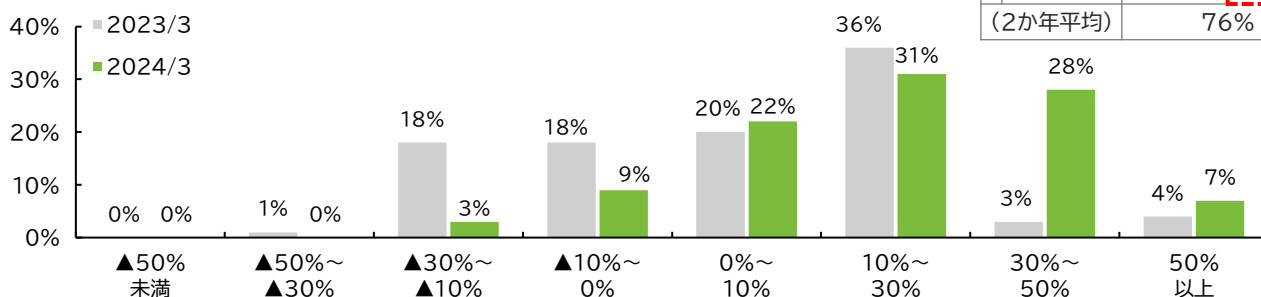
【共通KPI】

- 各時点で解約済みの契約、年金の支払いが開始している年金契約(据置期間の契約も含む)は含まず
- 運用損益比率 = {(基準日時点の解約返戻金額 + 基準日時点の既支払金額) - 契約時点の一時払保険料 (いずれも円換算)} / 契約時点の一時払保険料 (円換算)

運用評価別顧客比率

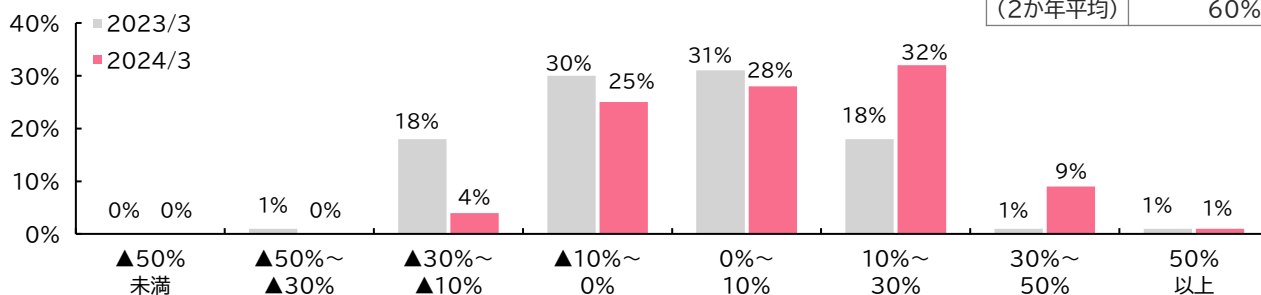
※運用損益別顧客比率「0%」表記には、1%未満を含む(小数点以下は四捨五入)。

銀行



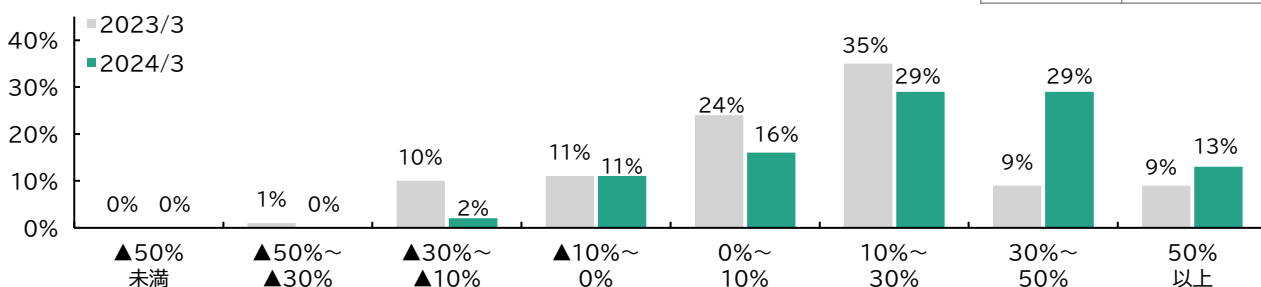
プラス顧客	2023年	2024年
3月末時点	63%	88%
前年比	-	+25pt
(2か年平均)	76%	

日興



プラス顧客	2023年	2024年
3月末時点	50%	70%
前年比	-	+20pt
(2か年平均)	60%	

信託



プラス顧客	2023年	2024年
3月末時点	78%	87%
前年比	-	+9pt
(2か年平均)	83%	

17 18 外貨建保険の運用評価別顧客比率、銘柄別コスト・リターン

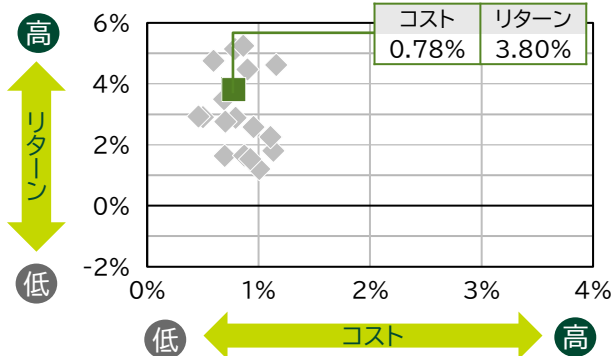
共通KPI

銀行

銘柄別コスト・リターン

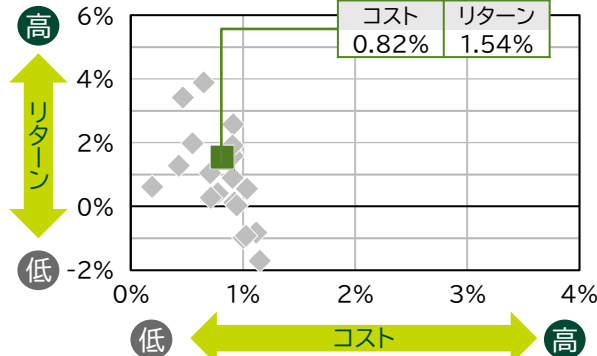
2024年3月末時点

■ 残高加重平均値



2023年3月末時点

■ 残高加重平均値



※ 2024年3月末時点で、保険契約開始から5年超の銘柄のみ
 ※ コスト: ①各契約のコスト率について、保険会社が支払う代理店手数料のうち、新契約手数料率を基準日までの契約期間で除したものと年間の継続手数料率を使用することで算出した上で、②各契約のコスト率を、各契約の契約時点の一時払保険料で加重平均したもの
 ※ リターン: ①各契約のリターン率について、(基準日時点の解約返戻金額 + 同既支払金額) ÷ (契約時点の一時払保険料) - 1 を年率に換算した上で、②各契約のリターン率を、各契約の契約時点の一時払保険料で加重平均したもの

残高上位銘柄

2024年3月末時点

	銘柄名	コスト	リターン
1	ビーエルスマイルドル	0.60%	4.75%
2	笑顔の約束	0.79%	5.14%
3	ビーエルガーデンⅡ	0.90%	4.46%
4	幸せの贈りもの(米/豪)	0.69%	3.49%
5	ビーエルガーデン	0.50%	2.90%
6	プライムハート	0.79%	2.88%
7	プライムチャンス	1.00%	1.20%
8	ビーエルスマイルⅡ(保障重視コース)	1.13%	1.80%
9	BroadwayWorldⅢ	1.04%	6.08%
10	ダブル・フロンティア	0.95%	2.58%
11	ビーエルクローバー	0.46%	2.93%
12	わたしの記念日	0.70%	2.76%
13	ビーエルスマイル豪ドル	0.69%	1.63%
14	たのしみステップ	0.86%	7.77%
15	ピースフルロード米ドル	0.87%	1.64%
16	キャッチポイントV	1.11%	2.25%
17	ガーデン ザ ギフト	1.05%	6.22%
18	一生涯受け取れる 人生応援年金(米/豪)	1.16%	4.62%
19	ダブルフロンティア終身(米/豪)	0.93%	1.53%
20	賢者の年金(米ドル)	0.86%	5.24%
	残高加重平均値	0.78%	3.80%

2023年3月末時点

	銘柄名	コスト	リターン
1	ビーエルスマイルドル	0.65%	3.90%
2	笑顔の約束	0.91%	2.58%
3	プライムハート	0.90%	1.70%
4	ビーエルガーデン	0.55%	1.99%
5	プライムチャンス	1.15%	▲1.70%
6	ビーエルガーデンⅡ	0.91%	1.59%
7	幸せの贈りもの(米/豪)	0.71%	1.05%
8	ダブル・フロンティア	1.04%	0.55%
9	ビーエルクローバー	0.43%	1.28%
10	ビーエルスマイル豪ドル	0.78%	0.41%
11	ビーエルスマイルⅡ(保障重視コース)	1.12%	▲0.82%
12	ピースフルロード米ドル	0.93%	0.12%
13	キャッチポイントV	1.00%	▲0.97%
14	わたしの記念日	0.71%	0.28%
15	ダブルフロンティア終身(米/豪)	1.03%	▲0.92%
16	BroadwayWorldⅡ	0.91%	0.90%
17	エバードリームドル	0.47%	3.42%
18	B/Lハーモニー	0.19%	0.61%
19	ピースフルデイズ豪ドル	0.94%	0.03%
20	ピースフルデイズ米ドル	0.91%	1.92%
	残高加重平均値	0.82%	1.54%

17 18 外貨建保険の運用評価別顧客比率、銘柄別コスト・リターン

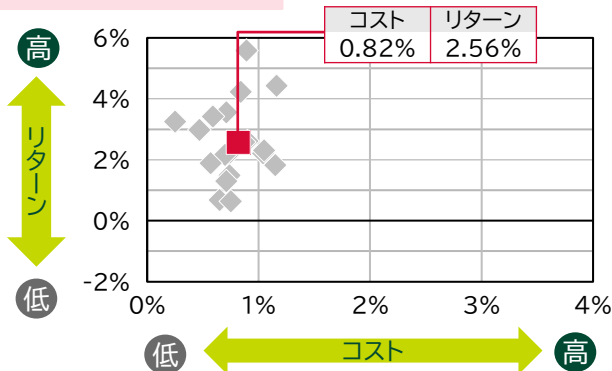
共通KPI

日興

銘柄別コスト・リターン

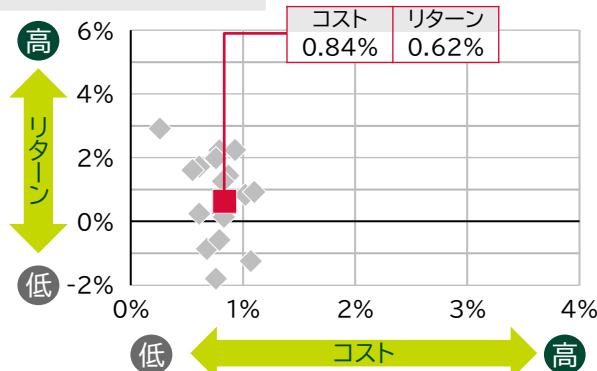
2024年3月末時点

■ 残高加重平均値



2023年3月末時点

■ 残高加重平均値



※ 2024年3月末時点で、保険契約開始から5年超の銘柄のみ
 ※ コスト: ①各契約のコスト率について、保険会社が支払う代理店手数料のうち、新契約手数料率を基準日までの契約期間で除したものと年間の継続手数料率を使用することで算出した上で、②各契約のコスト率を、各契約の契約時点の一時払保険料で加重平均したもの
 ※ リターン: ①各契約のリターン率について、(基準日時点の解約返戻金額+同既支払金額) ÷ (契約時点の一時払保険料) - 1 を年率に換算した上で、②各契約のリターン率を、各契約の契約時点の一時払保険料で加重平均したもの

残高上位銘柄

2024年3月末時点

	銘柄名	コスト	リターン
1	幸せの贈りもの	0.65%	0.67%
2	笑顔の約束	0.89%	5.58%
3	幸せの贈りもの	0.73%	2.19%
4	ビー ウィズ ユー プラス	1.15%	1.82%
5	ダブル・フロンティア	0.90%	2.61%
6	ビーウィズユー(USD建)	0.71%	3.55%
7	プレミアベスト	1.04%	2.21%
8	ロングドリームGOLD	0.87%	2.58%
9	ビーウィズユー(豪ドル建)	0.74%	1.48%
10	積立利率金利連動型年金(米ドル建)年金額確定特約付	0.84%	4.23%
11	ダブル・フロンティア終身(米ドル建/豪ドル建)	0.71%	1.30%
12	しあわせ、ずっと	0.70%	2.16%
13	たのしみステップ	1.01%	7.97%
14	積立利率金利連動型年金(豪ドル)	0.75%	0.63%
15	ロングドリームプラス	0.59%	3.42%
16	人生応援年金	1.16%	4.42%
17	しあわせ、ずっとNZ	1.05%	2.30%
18	アテナ	0.25%	3.25%
19	みらい、そだてる	0.57%	1.88%
20	アテナ2	0.47%	2.98%
	残高加重平均値	0.82%	2.56%

2023年3月末時点

	銘柄名	コスト	リターン
1	幸せの贈りもの	0.68%	▲0.86%
2	ダブル・フロンティア	1.02%	0.84%
3	ビーウィズユー(USD建)	0.79%	2.24%
4	笑顔の約束	0.93%	2.25%
5	ロングドリームGOLD	0.87%	1.44%
6	ビーウィズユー(豪ドル建)	0.83%	0.15%
7	ビー ウィズ ユー プラス	1.07%	▲1.24%
8	しあわせ、ずっと	0.82%	1.26%
9	ダブル・フロンティア終身(米ドル建/豪ドル建)	0.76%	▲1.79%
10	積立利率金利連動型年金(米ドル建)年金額確定特約付	0.76%	1.98%
11	積立利率金利連動型年金(豪ドル建)	0.79%	▲0.58%
12	ロングドリームプラス	0.61%	1.72%
13	アテナ	0.26%	2.92%
14	みらい、そだてる	0.61%	0.25%
15	しあわせ、ずっとNZ	1.10%	0.93%
16	アテナ2	0.55%	1.61%
	残高加重平均値	0.84%	0.62%

17 18 外貨建保険の運用評価別顧客比率、銘柄別コスト・リターン

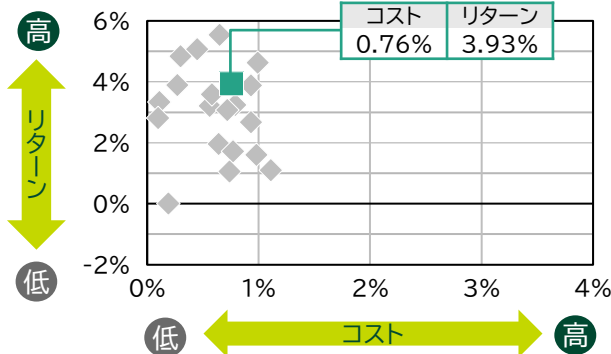
共通KPI

信託

銘柄別コスト・リターン

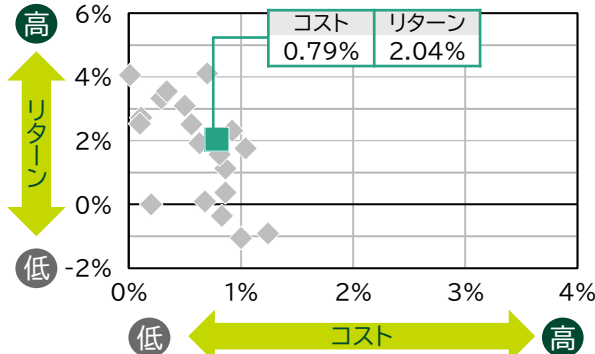
2024年3月末時点

■ 残高加重平均値



2023年3月末時点

■ 残高加重平均値



※ 2024年3月末時点で、保険契約開始から5年超の銘柄のみ
 ※ コスト: ①各契約のコスト率について、保険会社が支払う代理店手数料のうち、新契約手数料率を基準日までの契約期間で除いたものと年間の継続手数料率を使用することで算出した上で、②各契約のコスト率を、各契約の契約時点の一時払保険料で加重平均したもの
 ※ リターン: ①各契約のリターン率について、(基準日時点の解約返戻金額 + 同既支払金額) ÷ (契約時点の一時払保険料) - 1 を年率に換算した上で、②各契約のリターン率を、各契約の契約時点の一時払保険料で加重平均したもの

残高上位銘柄

2024年3月末時点

順位	銘柄名	コスト	リターン
1	サニーガーデンEX	0.99%	4.62%
2	ライフロング・セレクトPG3	0.79%	3.24%
3	グローイングライフ	0.93%	3.88%
4	モンターニュ	0.27%	3.89%
5	ライフロング・セレクトPG2	0.30%	4.84%
6	サニーガーデン	0.56%	3.21%
7	ビー ウィズ ユー プラス	0.98%	1.60%
8	ビーウィズユー(USD建)	0.72%	3.07%
9	幸せの贈りもの	0.64%	1.96%
10	三大陸	0.65%	5.54%
11	笑顔の約束	0.01%	6.20%
12	ビーウィズユー(豪ドル建)	0.77%	1.72%
13	シリウスデュアル	0.11%	3.33%
14	ブルーミング ライフ	1.11%	1.10%
15	プレミアベスト	0.93%	2.67%
16	マスミューチュアル終身プラス	0.74%	1.05%
17	PGターゲット2	0.58%	3.59%
18	シリウスハーモニー	0.19%	0.00%
19	モンターニュ2	0.45%	5.07%
20	シリウスプラス	0.10%	2.81%
	残高加重平均値	0.76%	3.93%

2023年3月末時点

順位	銘柄名	コスト	リターン
1	サニーガーデンEX	1.04%	1.76%
2	モンターニュ	0.29%	3.33%
3	ライフロング・セレクトPG3	0.86%	1.13%
4	グローイングライフ	0.92%	2.32%
5	サニーガーデン	0.63%	1.92%
6	ライフロング・セレクトPG2	0.34%	3.55%
7	ビーウィズユー(USD建)	0.81%	1.57%
8	ビーウィズユー(豪ドル建)	0.86%	0.38%
9	三大陸	0.56%	2.52%
10	ビー ウィズ ユー プラス	1.00%	▲1.05%
11	シリウスデュアル	0.11%	2.73%
12	幸せの贈りもの	0.68%	0.10%
13	ブルーミング ライフ	1.24%	▲0.91%
14	PGターゲット2	0.70%	4.11%
15	笑顔の約束	0.01%	4.06%
16	マスミューチュアル終身プラス	0.83%	▲0.36%
17	シリウスハーモニー	0.20%	0.00%
18	モンターニュ2	0.50%	3.10%
19	シリウスプラス	0.10%	2.54%
	残高加重平均値	0.79%	2.04%

参考 保険商品に関する管理プロセス

銀行

導入時	随時	<ul style="list-style-type: none"> 想定したお客さまの特性やニーズに対する当該商品の適切性や、商品の内包するリスクの検証等を保険会社ならびにグループ各社と協議。年金額・保証額等に影響のある運用戦略を組み込んだ商品については、運用戦略の内容や実績について精査を実施。
運用開始後	導入後半年	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に想定したお客さまの特性やニーズに対し、適切に販売されているかの検証。また、年金額・保証額等に影響のある運用戦略を組み込んだ商品については、導入後のパフォーマンスや運用戦略が適切に履行されているかを検証。
	年次	<ul style="list-style-type: none"> 商品見直しの抽出基準に沿って、定性・定量の両面で検証を実施。

日興

導入時	随時	<ul style="list-style-type: none"> 想定したお客さまの特性やニーズに対する当該商品の適切性や、商品の内包するリスクの検証等を保険会社ならびにグループ各社と協議。年金額・保証額等に影響のある運用戦略を組み込んだ商品については、運用戦略の内容や実績について精査を実施。
運用開始後	通年	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に想定したお客さまの特性やニーズに対し、適切に販売されているかの検証。また、年金額・保証額等に影響のある運用戦略を組み込んだ商品については、導入後のパフォーマンスや運用戦略が適切に履行されているかを検証。 取扱商品について、定性・定量の両面から検証を実施。

信託

導入時	随時	<ul style="list-style-type: none"> 保険会社との個別協議および保険会社提供の商品情報、ならびにグループ各社との協議を踏まえ、保障・贈与・年金・相続ニーズの観点から選定。 市場性のある商品については、運用戦略の内容や実績について精査を実施。
運用開始後	導入後半年	<ul style="list-style-type: none"> 導入時の想定コスト対比リターンについて、その適切性を検証。 導入時の想定リスク(市場影響のある解約返戻率)対比リターン(積立利率や運用成果)について、その適切性を検証。
	年次	<ul style="list-style-type: none"> 保険会社年次レビューの実施

参考 各種商品の取扱状況

銀行 日興 信託

仕組債の取扱いについて

銀行は2022年7月、信託は2023年2月末に仕組債の販売を全面停止。日興でも2023年10月から新しい運営方針を策定し、全ての複雑な仕組債について能動的なご提案は行わないこととしております。

ターゲット型保険の取扱いについて

銀行・日興・信託ではターゲット型保険の販売を順次停止することを予定しております。

銀行

仕組預金の取扱いについて

銀行は2023年5月に原則全てのお客さまへの勧誘を不可としており、現在は取扱いを停止しております。

● 手数料に関する考え方・説明

- 金融商品の販売にあたり、金融商品の対価とは別に手数料をいただく場合があります。また、保険商品のよう
に、お客さまにご負担いただく費用とは別に、金融商品の提供会社から販売代理店手数料等を受け取る場合
があります。
- こうした手数料は、例えば、金融商品・サービスのご提供にあたって必要となる、商品の開発・選定・品質維持
のための調査、提案資料・各種報告書・相場情報資料等の作成とそれをご提供するためのシステム維持・開発、
フォローアップまで含めたコンサルティングサービスのご提供、インターネットや郵送によるサービス等の費用
全般を総合的に勘案して設定しております。
- 各種合理化・効率化によるコスト抑制に努めつつ、ご負担いただく手数料対比、お客さまに最高の満足をご
提供できるよう、お客さまへのサービスの品質向上に努めております。
- SMBCグループ各社では、金融商品のご提供に際して、契約締結前交付書面・目論見書・重要情報シート等を用
いた、分かりやすいご説明に努めております。

参考 手数料開示に関する取組

銀行

- 金融商品・サービスのご提供に際し、各種ツールを用いて、手数料を分かりやすくご説明してあり
ます。
- お客さまの最善の利益を追求する生命保険の販売を推進する観点から、販売に際して保険会社
から受領する代理店手数料について、お客さま視点での役務の対価をベースに見直しを検討して
いきます。

<投資信託>

お客さまにご負担いただく費用等について

● 投資信託をご購入・保有いただく際には、以下サービスの対価として各種費用をご負担いただく必要があります。

投資信託の費用等の種類

種類	主な費用	ご提供サービス	SMBCグループ会社
購入時	<ul style="list-style-type: none"> 購入時手数料 	<ul style="list-style-type: none"> 商品説明・運用情報 販売受付対応 投資信託の運用・管理 目論見書・報告書等の作成 取引報告書の作成・交付等 	<ul style="list-style-type: none"> 販売会社（銀行等）
保有時（運用期間）	<ul style="list-style-type: none"> 運用管理費用（信託報酬）* 	<ul style="list-style-type: none"> 購入後の情報提供 運用報告書等の各種書類の作成 口内でのファンドの説明 	<ul style="list-style-type: none"> 販売会社（銀行等） 三井住友銀行で運用信託をご購入いただく場合は、三井住友銀行に依頼します。
売却時（売却時）	<ul style="list-style-type: none"> 信託財産確保等 	<ul style="list-style-type: none"> 信託財産の確保 信託財産の確保 信託財産の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 信託会社（信託銀行）

投資信託の各種費用と商品性との一般的な関係

● 購入時手数料

購入時手数料は、目論見書に記載の上場手数料以外で、販売会社が独自に設定しております。たとえば、海外投資へ投資する場合、海外のさまざまな市場の動向や為替リスク、国内資産の流動性によって一般的に流動性が低くなるため、購入時手数料は比較的高めになる傾向にあります。

主な評価項目

- 購入時手数料：安い → 高い
- 商品性（商品のリスク）：単純 → 複雑
- 投資地域：国内（先進国） → 海外（新興国）
- 投資手法：インダックス運用 → アクティブ運用
- リスク：低い → 高い

運用管理費用（信託報酬）

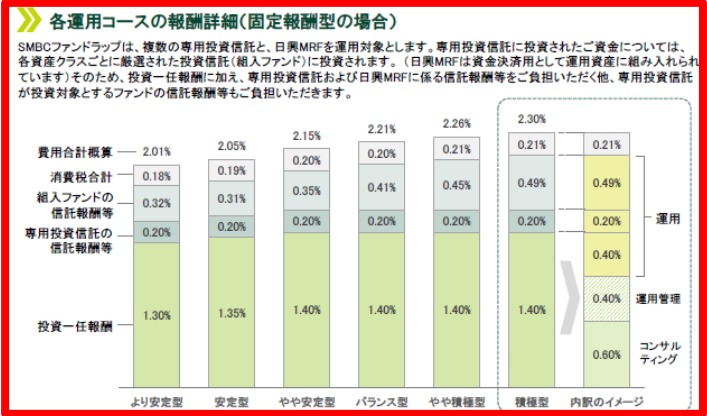
運用管理費用（信託報酬）は、投資地域・投資手法・投資対象等を主な評価項目として、販売会社が独自に決定いたします。一般的には、投資対象が国内から海外へシフトするにつれて、市場流動性以上の運用効率を期待する運用方法、市場流動性以上の運用効率を期待するアクティブ運用は、国内資産への投資や、市場流動性に期待するインダックス運用に比べ、信託報酬が高くなる傾向にあります。

<SMBCファンドラップ>

SMBCファンドラップ サービス概要および報酬費用について

● 各運用コースの報酬詳細（固定報酬型の場合）

運用コース	投資一任型	投資一任型	投資一任型	投資一任型	投資一任型
費用合計概算	2.01%	2.05%	2.15%	2.21%	2.26%
消費投合計	0.18%	0.19%	0.20%	0.20%	0.21%
組入ファンドの信託報酬等	0.32%	0.31%	0.35%	0.41%	0.45%
専用投資信託の信託報酬等	0.20%	0.20%	0.20%	0.20%	0.20%
投資一任報酬	1.30%	1.35%	1.40%	1.40%	1.40%



● 手数料に関する考え方・説明

参考 手数料開示に関する取組

日興

- 商品・サービスのご提供に際しては、手数料・費用を分かりやすくご説明しております。
 - また、SMBC日興証券では、2023年7月より一般投資家を対象に、取り扱う全仕組債の組成に係る費用の開示を開始しております。
- <例：日興ファンドラップの投資一任報酬>

「日興ファンドラップ投資一任報酬」
 お客さまには、投資一任契約に基づく当社の投資判断および投資一任運用の対価として、当社に対し日興ファンドラップ投資一任報酬(以下、「投資一任報酬」といいます。)を運用資産からお支払いいただきます。個別契約^{※1}毎に適用される投資一任報酬の体系は、次の2種類あります。なお、「エドモンド・ロスチャイルド・セレクション」のお客さまは、「固定報酬型」のみご利用となります(詳しくは「日興ファンドラップにおける契約締結前交付書面」(法人のお客さまは「法人用」とお読み替えてください。))をご覧ください。

①「固定報酬型」:基本報酬のみから構成される報酬体系をいい、個別契約の時価評価額に応じて、年率1.320%(消費税込)を上限とする基本報酬額を、原則として四半期毎にお客さまの運用資産からお支払いいただきます。

②「成功報酬併用型」:基本報酬に成功報酬を加えた報酬体系です。個別契約の時価評価額に応じて、年率1.188%(消費税込)を上限とする基本報酬額を、原則として四半期毎にお客さまの運用資産からお支払いいただくことに加え、原則として1年間の運用により一定以上の利益が出た場合に、その利益に対して11.0%(消費税込)の成功報酬額を、お客さまの運用資産からお支払いいただきます。

※1「個別契約」:当社とお客さまとの間で締結した、契約金額、基本ポートフォリオ^{※2}の種類、その基本ウェイト^{※3}や変動範囲、運用開始日など、個別ポートフォリオの投資一任運用において必要な事項全般を指します。

※2「基本ポートフォリオ」:基本ウェイトで構成される、お客さまが個別契約にて選択するポートフォリオをいいます。

※3「基本ウェイト」:個別契約における資産区分間での配分比率の目標値をいいます。

基本報酬	計算期間中における時価評価額の平均残高	固定報酬型		成功報酬併用型	
		基本報酬率(年率・消費税込)		基本報酬率(年率・消費税込)	
		RU1・RM1・安定	左記以外のモデル	RU1・RM1・安定	左記以外のモデル
	5,000万円以下の部分につき	1.1000%	1.3200%	0.9900%	1.1880%
	5,000万円超～1億円以下の部分につき	0.8800%	1.0450%	0.7920%	0.9405%
	1億円超～3億円以下の部分につき	0.6600%	0.7700%	0.5940%	0.6930%
	3億円超～5億円以下の部分につき	0.4400%	0.4950%	0.3960%	0.4455%
	5億円超～10億円以下の部分につき	0.3300%	0.3575%	0.2970%	0.3223%
	10億円超の部分につき	0.2200%	0.2200%	0.1980%	0.1980%

RU1:標準モデル「投資制限無しRU1」「オルタナのみ除くRU1」
 RM1:標準モデル「投資制限無しRM1」「オルタナのみ除くRM1」
 安定:セレクトモデル「安定」除く新興国株・債」「安定 除くヘッジファンド」および「安定 為替ヘッジ有」「安定 除く新興国株・債 為替ヘッジ有」「安定 除くヘッジファンド 為替ヘッジ有」

成功報酬	計算期間最終日における基本報酬額控除後の時価評価額がHWM [※] を超過した額	成功報酬率(消費税込)
▶成功報酬は「成功報酬併用型」をご選択の場合のみお支払いいただく場合があります。	超過部分に対し一律	11.0%
▶「固定報酬型」をご選択の場合はお支払いいたしません。		

※HWM(ハイウォーターマーク)とは、成功報酬を計算するための基準となる金額のことです。

<仕組債の組成に係る費用の開示>

費用等について	<p>本仕組債は、お客さまと当社との相対取引によりご購入いただきますので、購入対価のみお支払いいただきます。ただし、この購入対価には、お客さまが実質的に負担する組成、発行、ヘッジ、販売等に係る以下の費用等が含まれています。</p> <p>2024年6月14日時点における本仕組債の価格の理論値(理論価格)(※)は額面あたり[98.04%]です。価格の理論値(理論価格)と購入価格の差がお客さまに実質的にご負担いただく費用等となります。</p> <p>費用等の内訳は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社にとっての販売役務の対価相当額 販売役務の対価相当額には、販売に係る諸経費やアフターフォローの対価等が含まれています。販売役務の対価相当額は額面あたり4.00%以下となります。 ・本仕組債の組成に係る費用等 本仕組債の組成に係る費用には、本仕組債に組み込まれているデリバティブの期中管理費用等が含まれています。 <p>理論価格は、組成会社において算出した理論値であり、算出にあたり組成、発行、ヘッジ、販売等に係るコストを考慮していないため、購入対価より低い価格になります。</p>
---------	---

※ 組成会社のシステムおよび市場データ等により試算された理論値です。この理論値は、マーケット等の変動により、随時変動します。当社はその正確性および完全性について保証するものではありません。また、他社が提示する理論値とは異なる場合があります。実際にお取引頂く条件は本理論値を基準として決定されるものではなく、本理論値による売買取引を保証するものではありません。また、当社がお知らせする時価とは異なります。

● 手数料に関する考え方・説明

参考 手数料開示に関する取組

信託

- 投資信託に関する各種手数料に関しては、投資信託説明資料に詳細をお示しております。
- 保険商品に関する各種手数料に関しては、商品概要書に詳細をお示しております。

<投資信託説明資料>

お客さまにご負担いただく費用などについて

投資信託では、購入時手数料や信託報酬・管理報酬など各種手数料をご負担いただいております。手数料などは投資信託ごとに異なりますので、契約締結前交付書面(交付目録見書および補充書面)で必ず確認しましょう。

手数料の種類

時期	投資信託をご購入される時	投資信託を保有されている期間(運用期間)	投資信託を売却(換金)される時
購入時手数料 (販売手数料/申込手数料)	運用管理費用(信託報酬)	信託財産留保額	
投資信託を購入する際の費用として、販売会社に支払います。 ・購入時手数料が無料(ノーロード)のものもあります。	・運用や資産の管理などに対してかかる費用として、販売会社、運用会社、受託会社(信託銀行)に支払います。 ・あらかじめ定められた報酬率で日々計算され、償却率から差し引かれます。	・投資信託の売却(換金)などにかかる費用として支払います。 ・ファンドの換金などによりファンドに組み入れられる株式や債券などを購入・売却する際の費用について、そのコストを売却者に負担してもらうことで、投資家間の公平性を図ることを目的としております。 ・信託財産留保額のため投資信託もありません。	

※上記の他、「組入 有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料」、「監査費用」などを保有期間に応じてご負担いただく場合があります。
※上記の例は一般的なものであり、契約締結前交付書面(交付目録見書および補充書面)をご確認ください。
※投資信託の収益分配時や換金・償還時に、所得税(復興特別所得税等)および住民税が課税される場合があります。
※外国籍投資信託の税金は基本的に国内の投資信託と同じですが、外国においてすでに税金が徴収されている場合の調整や、日本国内での税計算上適用される為替レートなど、外国証券特有の問題も留意する必要があります。税金の取扱いの詳細については、お近くの税務または税務専門家(税理士など)にご相談されることをおすすめします。

手数料と商品性との一般的な関係

●購入時手数料
購入時手数料は、目録見書に記載の上限手数料以下の水準で、販売会社が総合的に判断し決定しております。購入時手数料は各ファンドごとに異なるため、手数料の詳細については契約締結前交付書面(交付目録見書および補充書面)でご確認ください。

●運用管理費用(信託報酬)
運用管理費用(信託報酬)は、投資地域・投資手法・投資対象などを主な評価項目として、委託会社(運用会社)が総合的に判断し、決定いたします。

運用管理費用(信託報酬)	← 低		高 →
	国内	海外(先進国)・海外(新興国)	現地で調査・管理などが必要となる海外資産への投資は、国内資産への投資にくらべて、運用管理費用が高くなります。
投資地域	国内	海外(先進国)・海外(新興国)	現地で調査・管理などが必要となる海外資産への投資は、国内資産への投資にくらべて、運用管理費用が高くなります。
投資手法	インデックス運用など	アクティブ運用など	投資対象を詳細に調査・分析する必要があるアクティブ運用(市場指数以上の運用収益を目指す運用)は、インデックス運用(定められた市場指数の運用を目指す運用)にくらべて、運用管理費用が高くなります。
投資対象	債券 単一資産	株式 複数資産	情報入手や調査、分析、リスク管理などが必要となる株式や複数資産への投資は、債券や単一資産にくらべて、運用管理費用が高くなります。
運用形態	ファミリー・ファンド方式	ファンド・オブ・ファンズ方式	ファンド・オブ・ファンズ方式では、ファンドマネージャーが選択する複数の投資信託のそれぞれにおいて運用報酬や管理費用が発生するため、資金をまとめて運用しているファミリー・ファンド方式にくらべて、運用管理費用が高くなります。

※本資料は、お客さまへの当行で取扱う投資信託における主な提供サービスとお客さまが負担する費用および当行販売会社として受取る手数料の基本的な考え方をご提供するものであり、当行が取扱うすべての投資信託の購入時手数料や信託報酬の具体的な料率を定めるものではありません。
※上記については一般的な例示となりますので、必ずしも当てはまらない場合があります。

手数料とご提供する主なサービス

手数料種別	サービス提供会社	ご提供する主なサービス
購入時 購入時手数料 (販売手数料/ 申込手数料)	販売会社	●商品説明、運用相談など ●販売受付事務 ●契約締結前交付書面(交付目録見書および補充書面)・販売用資料の提供 ●取引報告書の作成・交付
	販売会社	●購入後の情報提供 ●運用報告などの各種書類の送付 ●口座内でのファンドの管理(換金代金、分配金のお支払、徴税関連事務など)
	委託会社 (運用会社)	●信託財産の運用 ●基準価額の計算 ●開示資料の作成(目録見書、運用報告書、各種レポートなど)
保有時 運用管理費用 (信託報酬)	委託会社 (運用会社)	●信託財産の管理 ●委託会社からの指図に従って運用を実行
	受託会社 (信託銀行)	

投資信託の運営と各サービス提供会社の役割

●お客さま(受益者)は、販売会社(銀行・証券会社など)を通じて投資信託を購入し、運用管理費用を支払います。販売会社は、お客さまと投資信託をつなぐ窓口となっています。投資信託は、金融市場に投資し、運用成果を生み出します。運用会社(委託者)は、投資信託の投資対象や地域、投資方針などを決め、お客さまから預かった資産を運用します。信託銀行(受託者)は、お客さまから預かった資産を大切に保管・管理します。

※上記については一般的な例示となりますので、必ずしも当てはまらない場合があります。

【投資信託に関する注意事項】
お取引にあたっては、最新の投資信託説明資料(交付目録見書)および目録見書補充書面を必ずご確認ください。これらは当行の店頭等にご用意しております。
●投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。また、当行で取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
●投資信託は、元本・利回りの保証はありません。●投資信託は、購入した国内外の株式や債券等投資対象の価格変動、投資対象の選定が投資信託の収益と損失や外貨建て投資信託を円換算する場合の外国為替相場の変動、およびその他のリスクにより、投資元本を下回ることがあります。これらのリスクおよび損益は、お客さまご自身の責任となります。●ファンドの購入・換金にあたっては各種手数料等(申込手数料、信託財産留保額等)がかかります。また、別途、信託・管理報酬、その他費用(監査報酬、信託事務報酬費用、成功報酬等)を毎年、信託財産を通じてご負担いただきます。お客さまにご負担いただく手数料はこれらの合計額となりますが、これら手数料等はファンド、運用状況、保有期間等により異なるため、具体的な金額・計算方法を記載することができません。各ファンドの手数料等の詳細は、投資信託説明資料(交付目録見書)および補充書面でご確認ください。●投資信託の購入・換金にあたっては円貨と外貨とを交換する場合は、別途、為替手数料が片道1円/往復2円(上限)がかかります。●米国税法上の米国人(米国籍市民・米国籍居住者またはグリーンカード保有者)は、居住・非居住にかかわらず投資信託の取引申込みができません。また、非居住者およびSMBC信託銀行への届出住所が日本国外のお客さまについても同様となります。
商号等：株式会社SMBC信託銀行 登録金融機関：関東財務局長(金金)第653号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人日本二重金融商品取引業協会
◎ご紹介している商品・サービスは、SMBC信託銀行で取扱いいたします。
◎ご紹介している商品・サービスは、当行の総合判断により、お客さまに販売・提供できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お問合せは、店頭またはプレステアホン インベストメントへ。
インターネットからは
0120-322-522 | <https://www.smbctb.co.jp/investment/mutualfunds/>

2023年3月現在
PRC-MF0036wPZ60

<例:メットライフ生命取扱い一時払い終身保険>

ご負担いただく費用について

- 当保険にかかる費用は、以下の費用の合計額となります。

契約時・保険期間中にご負担いただく費用

項目	費用	ご負担いただく時期
保険関係費用	死亡保障および保険契約の締結・維持にかかる費用(*1)	最大1.05%
	災害死亡保障にかかる費用(*2)	年0.02%

積立利率を決定する際に、所定の期間における指標金利の平均値に1.0%を増減させた範囲内でメットライフ生命が定めた利率から差し引きます。
円建終身保険に移行後、メットライフ生命が定めた利率から差し引きます。

●販売手数料について

一時払保険料の額に下記の支払率を乗じた金額が、1年あたりの販売手数料として引受保険会社から募集代理店に対して支払われます。なお、販売手数料は、上記「ご負担いただく費用について」に追加してお客さまにご負担いただくものではありません。

支払率	被保険者の契約年齢	0歳～満64歳	満65歳～満74歳	満75歳～満80歳	満81歳～満85歳
	初年度	3.00%	3.00%	3.00%	1.50%
次年度以降(支払期間:7年)	0.70%	0.50%	0.20%	0.20%	

● 分かりやすい情報提供

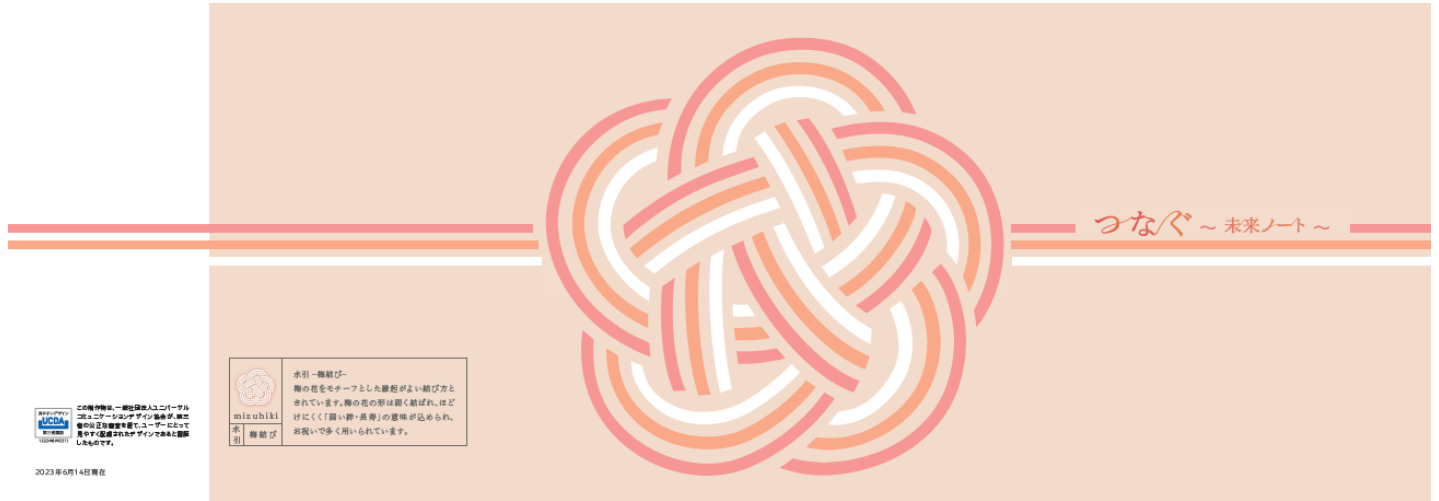
銀行 日興 信託

- グループ一体となってユニバーサルデザインを推進するために、セミナー開催や外部資格取得、ユニバーサルデザインに配慮したお客さま向け資料の作成等に取り組んでおり、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(以下、UCDA)が主催する「UCDAアワード」において、2023年度、銀行が5年連続UCDAアワード(最優秀賞)及び「総合賞(ゴールド)」を受賞。また、日興では2021年度、「総合賞(ブロンズ)」を受賞しています。

銀行

- お客さま本位の業務運営の実践の一つとして、お客さまが各商品・サービスについて分かりやすく、正しい情報を理解できるようユニバーサルデザインに配慮した資料の作成に努めております。
- その一つとして、UCDA主催「UCDAアワード2023」において、5年連続最優秀賞(UCDAアワード)を受賞。また、企業の1年間のUCD活動が高く評価され「総合賞(ゴールド)」を受賞しています。
- このほか、当行で取り扱っているラインアップをご案内する『総合商品ラインアップ』や、制度を活用した資産形成の情報提供資料『知らないと損?! 税制を活用した資産形成』では、資料改訂後も「伝わるデザイン認証」を取得し、「わかりやすく」伝えることに継続して努めています。
- 今後もお客さまがご自身のニーズに見合った金融商品・サービスを適切に選択し、最適なポートフォリオを構築できるよう、分かりやすい・伝わりやすい資料づくりに取り組んでまいります。

<「印刷物」と「Web」を連携させたコミュニケーションツール>



大切な財と心を守る

Safety

これまでの人生で築いたもの、ひと、こころ
これらはすべてが財産

大切だからこそ、守り、想いをつなぐ

Chapter 4

11

人生の財をととのえる

古い連絡や印鑑、SNSのIDやパスワード等、身の廻りの大切な情報。多忙な生活で整えられなかった人生の財(たから)を整理してみましょう。

SMBCデジタルセーフティボックス

ご自身の大切なものや大事な情報を整理し、登録することができるデジタルサービス。 <わくはここから>

整理できていない大切な財産を確認

もの	ひと	こころ	その他
<input checked="" type="checkbox"/> 連絡	<input checked="" type="checkbox"/> 筆	<input checked="" type="checkbox"/> 家族・友人の連絡先	<input type="checkbox"/> 大切な人へのメッセージ
<input checked="" type="checkbox"/> 印鑑	<input checked="" type="checkbox"/> 時計	<input checked="" type="checkbox"/> 家系図	<input checked="" type="checkbox"/> 思い出
<input checked="" type="checkbox"/> 有価証券	<input checked="" type="checkbox"/> コレクション	<input checked="" type="checkbox"/> 健康	<input checked="" type="checkbox"/> お墓や葬儀
<input checked="" type="checkbox"/> 保険証券	<input checked="" type="checkbox"/> 美術品	<input checked="" type="checkbox"/> かかりつけ医	<input checked="" type="checkbox"/> 処分してほしいもの
<input checked="" type="checkbox"/> 不動産	<input checked="" type="checkbox"/> パスワード・ID	<input checked="" type="checkbox"/> お香典先	
<input checked="" type="checkbox"/> 貴金属	<input checked="" type="checkbox"/> アルバム	<input checked="" type="checkbox"/> ペット	

大切な記憶や記録を、大切な人へつなぐ

SMBCデジタルセーフティボックス

Chapter 4 Safety

12

● 分かりやすい情報提供

日興

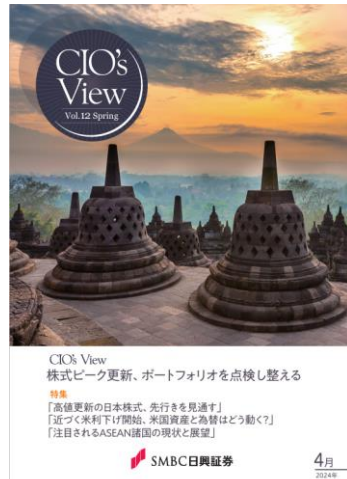
- 国内外の投資環境や注目の投資テーマなどのマーケット情報、商品に関する分かりやすい動画や資料を当社ホームページや営業担当者のiPadで閲覧いただける環境を整備しており、より納得感のあるご提案をさせていただけるよう努めております。

<動画による情報提供>

- 当社では、日々刻々と動くマーケット状況をタイムリーに捉えた投資情報部によるネットセミナーのほか、当社在籍の人気アナリストによる動画等の情報提供を行っております。
- また、NISA活用や相続など、幅広いテーマのセミナーも開催しております。



<季刊誌 CIO's View>



CIOは、ご自身の資産形成や、より良い未来の構築を目指す投資家の海図やコンパスとなり、資産運用の航路をガイドします。

Mission

- ① 資産運用を行う投資家の賢明な視点から、市場環境の深い理解と最適な投資戦略(ポートフォリオ戦略)をご提案します。
- ② 長期的な資産運用を安心に行うための考え方や、投資による経済・社会への貢献という視点からの情報もお届けします。
- ③ CIOは、SMB各部署が投資家の皆様の資産運用におけるパートナーであるためのエンジンとして働きます。

④ CIOのテーマは「お金の未来」です。CIOは市場環境・資産運用における世界的投資家兼メンターにより構成されています。また、運用会社や信託会社とのパートナーシップを築き、お客様に最適な資産運用を行う資産運用の専門家として貢献します。

お問い合わせ先: 日興証券 投資情報部 CIO's View編集部

4月 2024年

信託

- 当行の旗艦セレクションである、「フラッグシップシリーズ」を通じて、長期・分散投資の意義をご説明しております。

<世界標準の投資戦略-PRESTIAフラッグシップシリーズ>

世界標準の投資戦略- PRESTIAフラッグシップシリーズ

SMBC信託銀行では、お客さまの長期的な資産形成において「守りながら育てること」が重要である考え、長期・安定運用のコア資産として、世界有数の運用会社の商品群から厳選した独自の投資信託ラインアップ(PRESTIAフラッグシップシリーズ)を設定いたしました。

- 下記のグラフをご覧ください。景気サイクルや市場環境によって、年々各資産のパフォーマンス順位は変動いたします。
- 長期で定めた運用を目的としたり、さまざまな資産に分散し、かつ機動的に見直しを図ることが重要と考えられます。

資産クラス別 年次リターンランキングの推移(対J-REIT)	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
先物取引	79%	20%	27%	16%	1%	14%	38%	-1%	-	-
先物取引	64%	19%	8%	19%	8%	6%	0%	先物取引	23%	-3%
先物取引	38%	14%	3%	19%	4%	0%	10%	11%	先物取引	-5%
先物取引	31%	12%	5%	19%	2%	0%	-4%	8%	10%	-5%
先物取引	28%	12%	先物取引	17%	先物取引	先物取引	先物取引	先物取引	先物取引	先物取引
先物取引	3%	5%	-18%	2%	-7%	2%	15%	2%	7%	-14%

【PRESTIAフラッグシップシリーズのポイント】

- Point 1 真の分散投資**
「株式・債券」「国内・海外」といった伝統的な分散投資にとどまらず、「テクノロジー・ESG」など、ファンダメンタルズも異なる分散投資を推進します。
- Point 2 運用が進化**
相場環境に合わせて、機動的に購入し売却のメンテナンスを行うことに加え、新たな投資手法や投資資産を取り入れることで、運用を進化させます。
- Point 3 世界有数の運用会社のファンド間でスイッチング**
ゴールドマン・サックス、J.P.モルガン、ブラックロックが運用を行うファンド間でスイッチングが可能です。株式、マルチアセットのファンド間でスイッチングが可能です。より機動的な運用が可能です。

PRESTIAフラッグシップシリーズ ファンド・ラインアップ

スイッチング対象商品

- グローバル債券**
PIMCO
世界有数の運用会社によるグローバル債券の運用。リスクを抑えながらリターンを追求します。
- プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド**
JPMorgan
多様な国・地域に分散したグローバル債券の運用。リスクを抑えながらリターンを追求します。
- プレミアム・ファンズ グローバル・コアポートフォリオ**
BlackRock
先進国と新興国に分散したグローバル株式の運用。リスクを抑えながらリターンを追求します。
- プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド**
BlackRock
世界の株式市場に分散したグローバル株式の運用。リスクを抑えながらリターンを追求します。

各ファンドのリスク・リターンイメージ図

スイッチングについて

追加や売却でスイッチングが可能。スイッチング手数料は無料です。スイッチングは、ご自身の投資目的やリスク許容度に合わせてご検討ください。スイッチングは、ご自身の投資目的やリスク許容度に合わせてご検討ください。

- ユニバーサルコミュニケーションデザインに配慮した資料作成に努めており、2019年度は、UCDA主催「UCDAアワード2019」の『金融機関分野/資産運用の商品ラインナップパンフレット』において、「特別賞」を受賞いたしました。

商品検討における比較説明の実施

銀行

- 各商品の概要を一覧で比較してお示しすることで、お客さまご自身のお考えに沿った、納得感のあるご提案をできるように努めております。
- 「資産を守りたい・資産を形成していきたい」といったニーズに適した投資信託や外貨建債券等の商品と、「年金・遺す・贈る」といったニーズに適した保険商品との相違点を、より分かりやすくお伝えできるよう、比較説明資料の充実を図っております。
- また、2024年度には、比較説明資料にリスク・リターンイメージ図を追加し、各商品のリスク・リターンの関係性をご確認いただくことが可能となりました。また、外貨建保険を短期で解約した場合、リターンが減少する傾向にあることも可視化するなど、お客さまのニーズに適した商品をお選びいただけるよう資料をご用意しております。

お客さまニーズ・運用方針イメージ	外貨預金	外貨建債券	投資信託	ファンドラップ	外貨建保険
	ふやす	ふやす	ふやす	ふやす	年金 遺す 贈る
	▶ 円よりも高い海外の金利で運用したい。 ▶ 少額から運用を始めたい。	▶ ささまざまな国や企業、年数、通貨で運用したい。	▶ プロが選んだ株や債券の組み合わせから自分で選択したい。 ▶ 少額から運用を始めたい。	▶ ささまざまな資産で分散投資したい。 ▶ 利にどれだけ投資するかをプロに任せたい。 ▶ 運用を始めた後の管理や見直しもプロに任せたい。	▶ 保障機能を重視したい。

期間

特徴

コスト

主なリスク

リスクについて

※上記の内容は、商品の一例であり、個別の商品の特徴や留意点をすべて記載したものではありません。また、個別の商品は三井住友銀行の取組商品の主な投資対象、投資方針等を参考に、三井住友銀行が独自に分類したものであります。

各商品・サービス分類のリスク・リターン関係のイメージ図

- 投資信託や外貨建債券等の「資産を守りたい・資産を形成したい」といったニーズに適した商品・サービス分類においても、それぞれの特徴、コスト等によって、下図の通りリスク・リターンは異なります。
- 外貨建保険は「年金・遺す・贈る」といった機能をご提供するために必要な費用がかかります。また、外貨建保険は、他の商品・サービス分類と比較した場合、一般的に短期で解約した際の「解約手数料」が高い傾向にあるため、短期で解約した場合、下図の通り、著しくリターンが低下する傾向にあります。
- 上記のような特徴を踏まえ、お客さまのお考え・目的に応じた商品・サービス分類をご選択ください。

※上図は、一般的なイメージであり、当行が取り扱うすべての商品・サービスが当てはまるものではありません。
※同一の商品・サービス分類であっても、リスク・リターンの関係は個別の商品・サービスや選択するコース、通貨によって異なります。

ご留意点

- この資料は金融商品の特徴・概要等をご理解いただくことを目的とした資料であり、特定の商品・サービスを推奨・勧誘するものではありません。
- この資料は、具体的な商品・サービスをご説明するものではないため、詳細を記載していませんが、購入にかかる手数料は、個別の商品・サービスによって異なります。
- 本資料に記載した以外にもご留意いただきたい事項がございますので、個別具体的な商品・サービスをご検討される際は、手数料等を各商品・サービスの説明書等※で必ずご確認ください。最新の説明書等は、三井住友銀行本支店の店頭窓口等でご用意しております。
- 個別の商品・サービスによっては、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動を直接の原因として、損失が生じるリスクがあります。
- 個別具体的な商品・サービスをご検討される際は、各商品・サービスのリスクを説明書等※で必ずご確認ください。
- ※各商品・サービスにおけるご確認いただきたい説明書等
外貨預金：商品説明書等
外貨建債券：目論見書、販売説明書、契約締結前交付書面等
投資信託：投資信託説明書(交付目論見書)、目論見書補充書面等
ファンドラップ：目論見書、契約締結前交付書面等
外貨建保険：商品/パンフレット・契約概要・注意喚起情報・設計書・ご契約のしおり・約款・特別勘定のしおり等
- 外貨預金は預金保険の対象外です。また、外貨建債券・投資信託・ファンドラップ・外貨建保険は預金ではないため、預金保険の対象外です。
- 当行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当行で外貨建債券・ファンドラップをご検討される場合は、以下委託金融商品取引業者とする金融商品仲介業務において取次ぎいたします。金融商品仲介で取り扱う外貨建債券・ファンドラップは投資者保護基金の対象です。《委託金融商品取引業者》
SMBC 日興証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号
加入協会 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本STO協会
- 外貨建保険商品をご検討いただくにあたって、当行は、募集代理店として、契約の媒介を行います。契約の相手方が、当行ではなく、引受生命保険会社となります。また、引受生命保険会社が破綻した場合には、生命保険契約者保護機構により保護の措置が図られますが、ご契約の際にお約束した死亡給付金額・年金額・死亡保険金額、解約返戻金額等が引受保険料を下回るリスクがあります。
- 金融商品を換金(解約)を行う場合、換金(解約)時期等に制限があることがあります。
- 当行で金融商品をご検討いただくにあたり、お客さまのご意向(ニーズ・投資のご経験や知識、財産の状況、投資目的等)に合わない商品は、ご案内できない場合があります。
- この資料の内容は、作成日時時点の情報に基づいて作成しております。今後変更になる可能性があります。将来を保証するものではありません。

(2024年6月26日現在)

● **お客さま向けセミナー**

銀行 日興 信託

- 2023年度は、SMBCグループ会社共催の「人生100年時代FORUM」を4年ぶりに対面で開催、さらに、当日のセミナー講演をオンラインとして配信しました。
- 2023年度は、約2,700名の方にお申込みいただき、人生100年時代というテーマに改めて目を向け、考えていただくイベントとなりました。引き続き、お客さまのお役に立てる情報発信に努めてまいります。

<人生100年時代FORUM>



リアルイベント : 2023年11月18日(土) ベルサール汐留

オンラインイベント : 2023年12月11日(月)~2024年2月29日(木)

参考 **人生100年時代・高齢社会への対応**

銀行	<ul style="list-style-type: none"> 人生100年時代におけるお客さまの多種多様なニーズに対し、金融・非金融の垣根を超えた付加価値の高いご提案を実現するため、各種サービス(※)を取りそろえております。 (※)専任コンシェルジュによる有人対応をエッジとした「SMBCエルダープログラム」や、大切な情報を銀行がお預りし次世代にお届けする「SMBCデジタルセーフティボックス」、家族の未来を予測し、将来に備えるアプリ「ファミリーネットワークサービス」(銀行100%子会社の株式会社SMBCファミリーワークスが提供)等
日興	<ul style="list-style-type: none"> 幅広いお客さまのご意向やご要望に応じて、様々なご案内・サービスを提供できる環境を整えております。 高齢のお客さまのご要望に応じたご提案のほか、不測の事態に備えるサービス・制度や、資産取り崩しニーズへ対応する投信の定期引出サービスなど、お客さまの状況変化に応じたサービスの拡充を図っております。
信託	<ul style="list-style-type: none"> 信託銀行としてのお客さまのニーズに沿ったプログラム(退職金運用プラン)を導入し、お客さまのセカンドライフをサポートしてまいります。 お客さまの資産を面倒な手続不要で、そのままご家族に相続・贈与することを目的としたサービス(スマート相続口座、ファミリーバトン等)を導入しております。

お客さま本位の アフターサービスの充実

お客さまに長期的に安心して運用商品をお持ちいただけるよう、きめ細かいアフターサービスに努めてまいります。

- お客さまの不安・不満の解消するために、必要に応じ、販売時の担当者による商品説明が分かりやすく、十分に行われていたかを確認しております。
- 投資信託や外貨預金等をお持ちのお客さまに対しては、お持ちいただいている商品の状況や関連するマーケット情報などを定期的に情報提供を行い、必要に応じ各営業店の担当者による面談・ご連絡を含めた、きめ細かいアフターサービスに努めております。
- 特に、政治イベントや地政学リスク等、市場動向が大きく変動した場合は、相場見通しや商品の運用状況をはじめ、お客さまの不安解消、投資判断に必要な情報をご提供できるように努めるなど、タイムリーかつ丁寧なアフターサービスを行っております。
- 有人対応だけでなく、LINEや電子メールといった様々なチャネルでも随時情報を提供するなど、アクセスチャネルの拡充により、利便性向上に努めております。

参考 アフターサービスの概要

銀行	<ul style="list-style-type: none"> ● いつでもご自身の携帯・パソコンで、資産状況のご確認ができる等、お客さまの利便性向上に努めております。 ● より安心して資産運用のお取引がいただけるよう、お客さまのご希望に応じて、対面だけでなく、オンライン面談やインターネット・アプリ・電話・メール等のデジタル・リモートチャネルの充実を図っております。 ● また、外貨建一時払保険を保有されているお客さまについては、ご契約内容の確認だけでなく、ご加入の経緯、ご家族状況や、解約時の損益状況の確認など、丁寧なお客さまフォローを定期的に行うことに努めております。
日興	<ul style="list-style-type: none"> ● 相場急落時等のお客さまへのフォローが必要な事態が発生した際には、営業担当者からの連絡やEメールの配信により、当社作成のレポートや動画等を使用した情報提供と丁寧なご説明を徹底しております。 ● また、定期的なフォロー状況を本社から確認できる社内システムを活用し、効率的な支援態勢を構築しております。 ● そのほか、「メール電子交付サービス」を活用した投資情報レポートの提供や「株価通知メール」「基準価額通知メール」等、お客さまのニーズに合わせたEメールサービスを多数、提供しております。
信託	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインやアプリ等でも口座状況のご確認とお取引をいただくことができ、またご希望の方にはタイムリーな情報をeメール配信することでお客さまの多様なニーズに対応しております。 ● マーケットの急変時にはホームページへのレポートの掲載などによる情報提供とともに、営業担当者からの保有商品の状況や市況に応じたご案内とフォローに努めます。 ● お客さまとのコンタクトを大切に、従来型のご来店やお電話等に加え、ご希望によりWeb面談も活用したフォローアップ体制を整えております。

参考 ファンドラップにおけるレビューの取組状況

銀行 日興

- SMBCグループでは、ファンドラップをご契約いただいているお客さまに対し、定期的にレビュー（運用状況のご報告、ご意向の確認、ご意向を踏まえた見直し提案等）を実施しております。
- レビューでは、ご契約いただいているポートフォリオの損益状況だけでなく、損益に対する組入ファンドの寄与度や、投資目標の達成状況等の情報提供を行っております。
- レビューを通じ確認したお客さまのご意向に基づき、最適な見直し提案を行っております。

<レビューにおける情報提供例>

① 運用状況のご報告	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオの損益状況、損益状況に対する組入ファンド別の寄与度 お客さまが設定した投資目標の達成状況
② お客さまのご意向の確認	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージやニーズの変化の確認 サービス機能の設定、変更有無の確認
③ 不明点の確認	<ul style="list-style-type: none"> 投資一任報酬についてのご説明 等

<ファンドラップ四半期運用報告書>



2. 運用資産分類別の状況

期間 自: 2022年03月01日 至: 2022年03月31日

運用資産別 報告書

○資産配分の状況

運用資産別	基本ポートフォリオの 目標配分 (①)	変動動向 上振値 下振値	運用ポートフォリオの 資産配分 (②)	2022年03月末(組入比率) (②) (②)	今回報告書と目標配分の差 率(②-①)
日本債券	15.0%	20.0%	15.0%	15.0%	-0.0%
外国債券	15.0%	20.0%	15.0%	15.0%	-0.0%
日本株	34.0%	15.0%	46.0%	34.0%	-0.0%
外国株	34.0%	15.0%	46.0%	34.0%	-0.0%
投資信託	4.0%	12.0%	0.0%	4.0%	-0.0%
日本ETF	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	-0.0%
外国ETF	0.0%	16.0%	0.0%	0.0%	-0.0%
合計	100.0%		100.0%	100.0%	-0.0%

※1 運用ポートフォリオの資産配分は当分の方針を示しており、市場動向の変化に応じて、変更される場合があります。

○運用資産分類別お預かり資産の状況

運用資産別	評価金額 (2022年03月末)	組入比率 (2022年03月末)	前回報告書からの 変化 (組入比率)
日本債券	1,962,386	13.34%	-28,848 (-1.52%)
外国債券	1,927,412	12.95%	-124,444 (-6.20%)
日本株	5,466,312	37.94%	8,608,419 (156.03%)
外国株	5,144,436	35.44%	522,469 (10.17%)
投資信託	498,140	3.42%	0 (0.00%)
日本ETF	146,999	1.02%	113,827 (7.75%)
外国ETF	626,289	4.34%	851,674 (129.76%)
合計	138,770	0.99%	206,370 (14.90%)
総計	14,711,861	100.00%	116,854 (0.80%)

※2 今回報告時点のお預かり資産の資産分類別の組入比率・評価金額を表示しています。

■運用資産分類別構成比(お預かり資産)

※当資料に記載されている各事項は、現時点または過去の業績等またはこれに基づく見直し等を示したものであり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。当資料に記載されているコメント・ご参考は、正確性を期しておりますが、一概に入示する情報等も含まれており、その正確性を保証するものではありません。



2. 運用資産分類別の状況

期間 自: 20××年××月××日 至: 20××年××月××日

運用資産別 標準報告書

○資産配分の状況

資産区分	基本ウェイト①	変動動向 上振値 下振値	運用ポートフォリオの 資産配分 (②)	今回報告書と(②) (2019年03月末現在)	基本ウェイトとの差額 (②-①)
日本債券	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	-0.0%
外国債券	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	-0.0%
日本株	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	-0.0%
外国株	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	-0.0%
投資信託	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-0.0%
日本ETF	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-0.0%
外国ETF	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-0.0%
合計	100.0%		100.0%	100.0%	-0.0%

※1 運用ポートフォリオの資産配分は当分の方針を示しており、市場動向の変化に応じて、変更される場合があります。

○運用資産分類別お預かり資産の状況

資産区分	評価金額 (20××年××月)	組入比率 (20××年××月)	前回報告書からの 変化 (組入比率)
日本債券	3,333,333	33.33%	0.00%
外国債券	3,333,333	33.33%	0.00%
日本株	3,333,333	33.33%	0.00%
外国株	3,333,333	33.33%	0.00%
投資信託	0.00	0.00%	0.00%
日本ETF	0.00	0.00%	0.00%
外国ETF	0.00	0.00%	0.00%
合計	10,000,000	100.00%	0.00%

※2 今回報告時点のお預かり資産の資産分類別の組入比率・評価金額を表示しています。

■運用資産分類別構成比(お預かり資産)

※当資料に記載されている各事項は、現時点または過去の業績等またはこれに基づく見直し等を示したものであり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。当資料に記載されているコメント・ご参考は、正確性を期しておりますが、一概に入示する情報等も含まれており、その正確性を保証するものではありません。

信託 ・ ファンドラップの取扱い無し。

お客さま本位の 業績評価体系の整備

お客さま本位の営業活動を的確に行うことを促すため、業績評価体系を整備してまいります。

- お預りする資産の残高や中長期分散投資に繋がる運用商品の販売等に重点を置き、長期的な視野に立った上で、お客さまとのWIN-WINの関係を目指した社内の体制や業績評価体系を整備しております。

参考 業績評価体系のポイント

銀行

- ・「質の伴った成長」の実現に向け、「社会的価値」「経済的価値」の創造に資する取組を評価しています。
- ・一人ひとりのお客さまに寄り添い、「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」等のニーズに応えるため、以下の点に重点を置いた評価体系としています。
 - ① 「Integrity」を大前提とし、「コンプライアンス」「お客さま本位」を軸とする評価（「Integrity for Customer」）
 - ② お客さまに良いものをお届けし、満足度が向上した結果として「お預りする資産」の残高が増加することを重視
 - ③ グループ一体でお客さまに向き合うため、お預りする資産は「グループ各社の合算」で評価
- ・「お客さま・従業員・株主・社会」のステークホルダーを意識した「自律的な拠点運営」を行う項目を評価し、お客さま本位の観点においては『お客さま本位の業務運営に関する取組方針リーフレット』『SMBCマネープラン』『トータルコンサルティングシート』等の活用状況や、お客さまへのレビュー・フォローアップ状況、お客さまの声(NPS®評価)を評価に反映させております。
- ・なお、担当者が真にお客さまのことを考え、前向きにコンサルティングに取り組めるよう、銀行の業績を達成するための計数目標を個人に割り振ることはしていません。

日興

- ・当社では部門・部店・個人の評価それぞれにおいて、「お客さま本位の業務運営」を追求し、それを前提とした業績向上という優先順位に基づく評価を行っております。
- ・部門においては、コンプライアンス態勢やお客さま本位等の観点から適切な業務運営の実践を部門経営の大前提とし、持続的成長に必要な評価項目を設定し、その業務成果を評価しております。
- ・部店においては、持続的成長への取組みとして、お預り資産の拡大状況やより中長期の資産運用提案に基づいた実績など、高度なコンサルティングの徹底によりお客さまの高い納得感が得られるお取引について適切な評価が可能な仕組みとしております。また、単年度手数料等の実績に偏らない評価体系を構築しております。
- ・個人においては、職業倫理・コンプライアンスと経営理念の体現を土台とし、その上で業績評価・コンピテンシー評価においてお客さま本位の取組みやお客さま重視の評価項目を設定し、評価を実施しております。

信託

- ・信託銀行として、社会的価値創造を意識した真にお客さまのためのコンサルティングに取り組めるよう、お客さまのニーズをお聞きすることから、信託商品を含めたグループ一体での幅広いご提案を推進することまでを評価体系としております。
- ・部店・個人の評価は「お客さま本位の業務運営」を軸とした定性評価と「持続的成長」、「財務的成果」の2つを軸とした定量評価でお預り資産残高やコンサルティングの取組をバランスよく評価しております。
- ・「お客さま本位の業務運営」の軸では、お客さま本位の取組、コンプライアンス全般、拠点運営と項目を明確にし、お客さまの最善の利益の追求とガバナンス態勢の両立を評価しております。
- ・「持続的成長」の軸では、中長期の資産形成を目指し販売額などではなく、残高を軸に評価しております。また、お客さまへのグループ一体での総資産アプローチの提供も評価に反映しております。
- ・「財務的成果」の軸では、お客さまのニーズヒアリングの取組と外貨決済・運用、信託、不動産を通じたお客さまの資産価値向上の取組を合わせて評価することで、真のお客さまのためのコンサルティングの取組を評価する体系としております。

コンサルティング力向上に向けた取組み

お客様の幅広いニーズに最適なお提案ができるよう、コンサルティング力の継続的な向上を図ってまいります。

- オンラインでの自己啓発環境を整備・拡充するとともに、ロールプレイング等の研修を行うことで、知識習得と実践の両面から、お客さまへのサービス提供に必要なスキルの向上を図っております。
- Web・アプリのUI/UXの向上や、LINE・ビデオチャット等の活用を通し、お客さまの利便性向上と、お客さまのご意向に沿ったお取引チャネルをご用意しております。
- お客さまの声や評価に真摯に向き合い、お客さまを起点としたサービス・満足度の向上に努めております。

19 ファイナンシャル・プランナー(FP)資格保有比率

- お客さまの幅広いニーズに対する提案力を向上するため、必要な知識を習得し、実践で活用出来るよう、FP2級以上(含むCFP・AFP)の資格取得を推進。

銀行 日興 信託

FP2級以上(含むCFP・AFP)の資格保有比率
 <銀行+日興+信託> 2024年3月末時点

管理職	前年比	外訪担当者	前年比
99%	±0pt	91%	▲1pt

参考 研修体制の整備

<成長サイクル>

- 担当者がお客様のニーズに対し、付加価値の高いサービスを提供するため、知識・スキルの習得に向けた成長サイクルを営業店・本部が一体となって支援しております。



銀行

- 「銀行×証券」の知識・スキルを習得して、国内No.1のウェルスマネジメントビジネスをリードするコンサルタントとなるべく成長サイクルをグループ会社も含め拡大するなど、質の向上を図ってまいります。

日興

- お客さまへの高度なコンサルティングの提供に向けて、部門内に人財育成に特化した部署を新設し、人財育成体系の高度化を実施しております。
- 人財育成体系の高度化の一環として、新入社員の支店配属前研修の長期化や、全営業員を対象とした対面での部門別研修などを実施しております。

信託

- 担当者ごとの「スキルチェックシート」によるスキルレベルの「見える化」を、より精緻なものとして高度化しております。
- 担当者の強み/弱みに合わせて①拠点管理職からの指名②担当者自らのエントリーにより選択できる自律参加型研修を整備し、担当者のコンサルティング力向上に取り組んでおります。

コンサルティング力向上に向けた取組み

参考 サービス・満足度向上に向けた取組み

- グループ各社でNPS®調査を実施し、NPS®調査スコアや頂いたコメントについて、分析し適切な商品・サービス提供、フォローアップができるように各種施策等に反映させるとともに、業績評価にも活用しております。
- そうした結果、信用格付業を営む株式会社格付け投資情報センター(R&I)が公表した「R&I顧客本位の金融販売会社評価(以下、「R&I評価」)において、「三井住友フィナンシャルグループ」として、2024年2月に「S+」評価を取得しました。
- 「様々な会議体での議論を通じて、三井住友フィナンシャルグループ全体で顧客本位の業務運営(Fiduciary Duty:FD)を顧客経験価値(CX)と一体で推進する態勢を構築している。FDの方針や取組は質・量とも充実しており、各社とも役割に応じた販売方針の下、充実したツール類の活用や情報提供を行っている点、グループの資源を活用した商品選定を行っている点」など高い評価をいただいております。

<NPS®調査とは>

- 「他者への推奨意向」を測ることで、お客さまのロイヤルティを測定する指標。
- 「家族や友人に薦める可能性はどのくらいありますか?」という質問に対して0~10点の11段階で回答したデータを推奨者(9~10点)、中立者(7~8点)、批判者(0~6点)の3グループに分類。推奨者の割合から批判者の割合を差し引いた数値がNPS®。

R&I 顧客本位の金融販売会社評価



※ NPS®は、ベイン・アンド・カンパニー、フレッド・ライクヘルド、サトメトリックス・システムズの登録商標です

参考 お客さま満足度の公表

※ 同じ項目においても各社で異なる調査方法を用いており、数値には差異があります。

銀行

- 金融商品等をお持ちのお客さま(①)や、購入・ご契約いただいたお客さま(②)に対し、定期的にデジタルや書面でのアンケートのご協力をお願いしています。お客さまからいただいた声を、商品・サービスの向上、開発に役立てています。
- <NPS調査結果(NPSスコア)の推移>

	21年上期	21年下期	22年上期	22年下期	23年上期	23年下期
①	-27.5	-17.1	-17	-11.2	-12.2	-4.5
②	-20.7	-3.9	7.7	10.6	16.7	17.5

日興

- お客さまにご満足いただけるサービスの提供につなげることを目的として、定期的にアンケートを実施しております。お客さまアンケートの結果を分析し、お客さまへの適切な商品・サービス提供、フォローアップができるよう当社の施策等に役立てています。
- <CX指標の推移>

	21年8月	22年2月	22年8月	23年3月	23年8月	24年2月
	6.6	6.5	6.3	6.5	6.7	7.0

※担当者付のお客さまからの評価
※CX指標0~10の11段階

信託

- お客さまの声を聞く機会を設け商品・サービスの向上、開発に役立てています。
- 外貨預金ご利用者のうち、72%のお客さまにご満足(※)いただいております。

	21年上期	21年下期	22年上期	22年下期	23年上期	23年下期
金融商品を購入いただいたお客さま	59.4	55.6	51.4	51.5	47.1	55.7
各種お手続き・ご相談をされたお客さま	-	-25.2	-22.2	-20.0	-22.4	-19.3

(※)2023年度 顧客ロイヤルティ調査結果より

● お客さま本位の浸透に向けた取組み

銀行

- NPS®調査結果は各営業店に還元しており、各担当者がその内容を確認しております。担当者が「無理に解約を止める」等の行為がなかったかの項目を追加する等、お客さまの忌憚のないご意見を踏まえ、お客さま本位のご提案ができるよう努めております。
- 2023年度のR&I評価において「S+」評価を取得しております。
- 米国COPC社「COPC®CX規格」認証取得(2014-2020年)。
- HDI-Japan(※)が提供するサポートサービスの格付け調査において、「問合せ窓口」「Webサポート」が、8年連続で国内最高評価となる三つ星を取得しております。
- 「2019年度グッドデザイン賞」を受賞した三井住友銀行アプリに続き、「三井住友銀行アプリ」に加え、「ホームページ」、「SMBCダイレクト(インターネットバンキング)」、「SMBC タブレット(対面サービスの際に利用する端末)」,そしてそれらが1つに繋がって提供する顧客体験「いつだってすぐそばに、SMBC」が「2021年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

GOOD DESIGN AWARD 2021年度受賞 いつだってすぐそばに、SMBC



日興

- 各営業店にアンケート結果を還元し、各担当者がお客さまからの期待と評価を確認し改善に活かしているほか、不芳回答には必要に応じ、管理職より早期対応を実践しております。また、調査結果から得られたCX向上への課題を経営・現場にフィードバックしております。
- 加えて、お客さまアンケートの結果は営業店の評価として取り入れており、コンサルティング力向上と共に、お客さま本位の取組みへの適切な動機付けの枠組みも構築しております。
- 2023年度R&I評価において「S+」評価を取得しております。
- 米国COPC社「COPC®CX規格」認証取得(2008-2021年)。
- HDI-Japan(※)が提供するサポートサービスの格付け調査において、「問合せ窓口」が18年連続(国内唯一)、「Webサポート」が13年連続で、最高評価となる三つ星を取得しております。

【問合せ窓口(コンタクトセンター)】



【Webサポート(ホームページ)】



信託

- NPS®調査結果は、各営業店に還元し、担当者に関するお客さまの評価を客観的に見つめ直す機会として活用するとともに、本社各部でお客さまのニーズを知る機会として活用しております。
- 2023年度R&I評価において「SS」評価を取得しております。
- HDI-Japanが主催する「HDI格付けベンチマーク」の『Webサポート』『問合せ窓口(電話)』格付けにおいて、最高評価となる三つ星を取得しております。
- 2021年3月には『COPC® CX規格CSP6.2版』を取得するなど、高い外部評価を得ています。



(※) HDI(ヘルプデスク協会)はサポートサービス業界における世界最大の認定機関であり、世界で50,000を超える会員を有する。

● お客さま本位の浸透に向けた取組み

- お客さまが、安心してご相談をいただけるよう、資産運用業務に関する基本姿勢について、リーフレットを活用したご説明に努めております。
- 「お客さま本位」の考え方や行動について、従業員が自ら考え理解を深めるため、1年に2回、「お客さま本位Day」と称し、各営業拠点でディスカッションを実施しております。
- 加えて、外部講師による「お客さま本位」に関する支店長向けディスカッション研修や担当者向けのTV勉強会を実施しております。

<「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」リーフレット>

銀行

日興

信託

- お客さま本位の精神は、経営理念の中に創業時より受け継がれており、その実践に日々取り組んでおります。
 - 創業記念日である7月7日を「経営理念の日」とし、全役職員が経営理念を軸に自ら取るべき行動を考え実践する企業文化を定着させることを目的に、各拠点でディスカッションを実施しております。
 - また、目指す姿の実現のために何をすべきかを具体的に示した「行動規範」をもとに、大切な価値観をあらゆる場面で体現できるよう役職員全員がしっかりと理解し、日々の行動につなげるべく努めております。
 - 「お客さまにより一層価値ある当行独自のサービスを提供し、お客さまと共に発展する」ことを経営理念の一つに掲げ、カスタマーエクスペリエンス(CX)の向上に取り組んでいます。
 - 積極的にお客さまの声を収集し、多角的な分析を行い、その結果を商品・サービスの向上、開発に役立てています。
- ※ カスタマーエクスペリエンス(CX)とは顧客経験価値の意を持ちます。顧客経験価値とは、商品・サービスの機能や性能における物質的な価値ではなく、心理的又は感情的な経験を価値として捉えることです。

● デジタル・リモート取引の推進

<総合金融サービス「Olive」リリース>

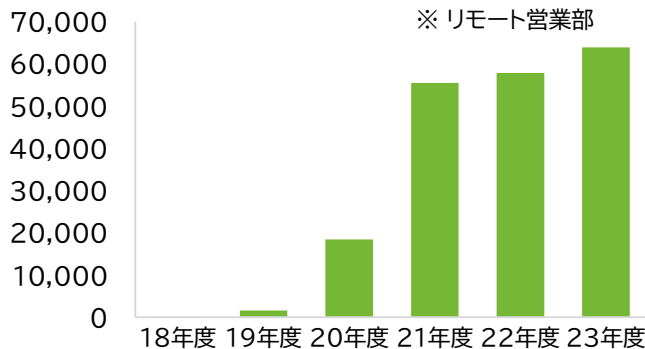
- Oliveは、誰もが金融サービスにアクセスでき、誰もがその恩恵を受けられる社会をめざしています。
- 金融サービスのデジタル化や多様化に伴う「把握や使い分けが難しい」等の課題に対し、口座・決済・証券・保険を1つに集約し、デジタルとリアル両面からお金とのかかわり方をサポートする環境を構築しています。
- 三井住友銀行と三井住友カードが、2023年3月より提供している個人のお客さま向け総合金融サービス「Olive(オリーブ)」が、「2023年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



銀行

<リモート取引の推進>

- 専門のコンサルタントが、電話やオンラインにて様々なご相談を承っており、リモートでの提案件数も着実に増加。
- 多くのお客さまからご好評いただいております。
- リモート拠点(*)における運用商品提案件数



・お客さまの声



近くに支店がなく誰にも相談できずにいたが、自宅に居ながら、電話で安心して相談できた。



平日は仕事で支店に行けないので、土日にじっくり相談できて有難かった。



パソコンの画面に資料を映しながら説明して貰えたので、非常に分かりやすかった。

日興

- お客さまからの当社商品・サービスや事務手続きに関するお問い合わせ等に、当社アプリやホームページのチャットサービスにてサポートさせていただきます。
- また当社オンライントレード(日興イーリートレード)にてWeb上でお手続きいただけるサービスを拡充しております。これにより、電子帳票での入力による利便性向上やお手続き時間を短縮が可能となりました。
- お客さまへの資産運用に関するご提案やフォローアップ時に、お客さまのご意向に応じて、Webでのコミュニケーションツールを活用し、機動的に対応させていただきます。

信託

- 新しい生活様式に則した新しい銀行サービスの提供に向けて、お客さまアンケートで寄せられたご意見を元に、「店頭業務の強化」と、「インターネットバンキングの強化」を図ってまいります。
- ① 店頭業務強化 : ビデオチャットを活用した資産運用相談およびフォローアップ
- ② インターネットバンキング強化 : プレスティアオンライン/プレスティアモバイルのUI/UX向上、コールセンターでのお客さまとの画面共有機能の導入、スマホアプリの導入

● サステナビリティ投資商品の充実に向けた取組

銀行

- お客さまの持続的な資産成長をお手伝いするとともに、ESGを投資対象選定の主要要素とする投資信託をご提案しております。
- お客さまと社会の成長を両立させる取組みを行うためのご質問をSMBCマネープランにご用意しております。

<投資信託>

ESG投資 — 投資を通じてSDGsの達成を支援 —

世界インパクト投資ファンド 海外株式 (グローバル)
(資産成長型)
《Better World》
 [設定・運用]
 三井住友DSアセットマネジメント株式会社

※「世界インパクト投資ファンド」は本プランの対象外です。



社会的な課題の解決にあたる企業に着目して投資します。

社会的な課題の解決(社会的インパクト)に取り組む企業に着目し、ファンダメンタル分析等を行い、投資魅力のある革新的な技術やビジネスモデルを有する企業に実質的に投資を行うことで、信託財産の成長を目指します。

SMBC・アムンディ 海外株式 (グローバル)
クライメート・アクション
 [設定・運用]
 アムンディ・ジャパン株式会社



世界が動き始めた。気候変動を巡る資産形成の新たな潮流。

持続的な成長のために気候変動アクションをおこす企業にグローバルな資金が動き始めています。このような企業の株式への投資を通じて、気候変動問題に貢献するとともに中長期的な資産成長を目指します。

<個人向け国債>

SMBC SMBCグループ

個人向け国債
SMBC
グリーンプログラム

三井住友銀行で個人向け国債をご購入いただくことが「温室効果ガス排出削減」等、地球環境保全につながります。

お客さまの個人向け国債のご購入にあわせて、当行が収益の一部を使って、クレジット(排出枠)の取得や、育林プロジェクトへの寄付等、「温室効果ガス排出削減」等の取組を行います。結果的には、お客さまによる個人向け国債のご購入が「地球環境保全」につながります。

クレジット(排出枠)の活用

クレジット(排出枠)の活用

クレジット(排出枠)の活用

育林事業等への寄付

育林事業等への寄付

育林事業等への寄付

※1 個人向け国債の購入にあわせて、クレジット(排出枠)の取得や、育林プロジェクトへの寄付等、「温室効果ガス排出削減」等の取組を行います。結果的には、お客さまによる個人向け国債のご購入が「地球環境保全」につながります。

※2 寄付が税制上認められます。

▶▶▶ くわしくは、裏面に記載されている個人向け国債の募集期間、利率、商品内容等につきましては、別途パンフレットをご用意しております。

三井住友銀行

<ソーシャル預金>

SMBC SMBCグループ

資産運用と社会貢献を結びつける、新しい形の外貨定期預金

ソーシャル預金

同じ外貨定期預金なら、社会に役立てる運用がしたい

お客さまからお預かりした預金は、医療・福祉や地域振興、貧困削減等、国内外の社会課題解決に向けたプロジェクト・活動に充てられます。

社会に与えるインパクトを実感できる社会貢献がしたい

お客さまのご意欲で、そのお金の使途に「人」に直接影響を与え、社会の課題解決に貢献するよう、手続可能な社会貢献の機会を提供します。

お預かりした預金は、以下の社会課題解決に資するプロジェクト・活動に活用されます

医療・福祉、教育、環境、社会福祉、国際協力、社会貢献、社会課題解決

五洲・アムンディ・カブに株式会社 代表取締役 橋本 健

特別社会貢献活動(国・自治体)を支援する「社会貢献活動」を実施しています。この活動を通じて、社会課題の解決に貢献し、社会の発展に寄与することを目的として、社会貢献活動を実施し、社会課題の解決に貢献しています。

くわしくは、裏面に記載されています。

三井住友銀行

<SMBCマネープラン>

03. エコ(環境) 活動してみたいですか? E Environment

とてもしたい

積極的に活動したい

したい

機会があれば活動してみたい

考えていない

専門家に任せたい

どんな「省エネ行動」を行っている人が多い?

幅広いサービス・ソリューション提供の充実

銀行 日興 信託

- お客さまの多様なニーズに対し、金融領域に留まらない幅広いサービス・ソリューションの提供を追求し、富裕層の皆さまに新サービスブランド「SMBC Private Wealth」のもと、より一層価値のあるサービスを提供してまいります。
- 運用のみならず、ビジネス、社会貢献、相続、事業承継、教育、エンターテインメント等、グループの総力を挙げてお客さまに適したソリューションの提供を目指しております。



銀行 信託

- 外貨を「資産運用・資産価値の安定化・決済などの多様なニーズにお応えする資産」と位置づけ、外貨に関する多様なニーズに、グループ一体でお応えしてまいります。

